

平安京左京三条三坊十町
(押小路殿・二条殿) 跡

平安京左京三条三坊十町
(押小路殿・二条殿) 跡

2007 年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

平安京左京三条三坊十町
(押小路殿・二条殿) 跡

2007 年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

序 文

京都には数多くの有形無形の文化財が今も生き続けています。それら各々の歴史は長く多岐にわたり、京都の文化の重厚さを物語っています。こうした中、地中に埋もれた文化財（遺跡）は今は失われた京都の姿を浮かび上がらせてくれます。それは、平安京建設以来 1200 年以上にわたる都市の営みやその周りに広がる姿をも再現してくれます。一つ一つの発掘調査からわかってくる事実もさることながら、その積み重ねによってより広範囲な地域の動向も理解できることにつながります。

財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、こうした成果を現地説明会や写真展、考古資料館での展示、ホームページでの情報発信などを通じて広く公開することで市民の皆様へ京都の歴史像をより実態的に理解していただけるよう取り組んでいます。また、小学校などでの地域学習への成果の活用も、遺物の展示や体験授業を通じて実施しています。今後、さらに埋蔵文化財の発掘調査成果の活用をはかっていきたいと願っています。

研究所では、平成 13 年度より一つ一つの発掘調査について報告書を発刊し、その成果を公開しています。調査面積が十数平方メートルから、数千平方メートルにおよぶ大規模調査までありますが、こうした報告書の積み重ねによって各地域の歴史がより広く深く理解できることとなります。

このたびマンション建設に伴う平安京跡の発掘調査成果を報告いたします。本報告書の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示たまわりますようお願い申し上げます。

末尾ではありますが、当調査に際して御協力と御支援をたまわりました多くの関係者各位に厚くお礼と感謝を申し上げます。

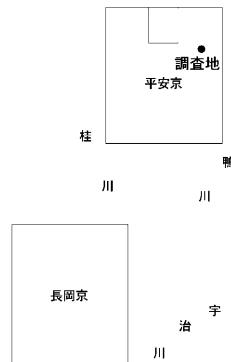
平成 19 年 11 月

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

所 長 川 上 貢

例 言

- | | |
|----------|---|
| 1 遺 跡 名 | 平安京左京三条三坊十町（押小路殿・二条殿）跡 |
| 2 調査所在地 | 京都市中京区両替町通御池上る金吹町 453-1 |
| 3 委 託 者 | 東急不動産株式会社関西支店
取締役常務執行役員 関西支店長 内山 満 |
| 4 調査期間 | 2007年3月30日～2007年5月25日 |
| 5 調査面積 | 200 m ² |
| 6 調査担当者 | 木下保明 |
| 7 使用地図 | 京都市発行の都市計画基本図（縮尺1：2,500）「聚楽廻・御所・壬生・三条大橋」を参考にし、作成した。 |
| 8 使用測地系 | 世界測地系 平面直角座標系VI（ただし、単位（m）を省略した） |
| 9 使用標高 | T.P.：東京湾平均海面高度 |
| 10 使用基準点 | 京都市が設置した京都市遺跡発掘調査基準点（一級基準点）を使用した。 |
| 11 使用土色名 | 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。 |
| 12 遺構番号 | 通し番号を付し、遺構の種類を前に付けた。 |
| 13 遺物番号 | 通し番号を付し、写真の番号も同一とした。 |
| 14 掲載写真 | 村井伸也・幸明綾子 |
| 15 遺物復元 | 村上 勉・出水みゆき |
| 16 基準点測量 | 宮原健吾 |
| 17 本書作成 | 木下保明 |
| 18 編集・調整 | 中村 敦・児玉光世・近藤章子・山口 眞 |



(調査地点図)

0 2 4km

目 次

1. 調査経過	1
(1) 調査に至る経緯	1
(2) 調査の経過	1
2. 位置と環境	3
(1) 位置と環境	3
(2) 周辺の調査	3
3. 遺 構	4
(1) 基本層序	4
(2) 遺構	4
4. 遺 物	13
(1) 遺物の概要	13
(2) 土器類	14
(3) 瓦類	24
(4) その他の遺物	25
5. ま と め	28

図 版 目 次

図版 1	遺構	1 調査区西半第 2 面全景（東から） 2 調査区東半第 2 面全景（北から）
図版 2	遺構	1 調査区西半第 1 面全景（東から） 2 調査区東半第 1 面全景（北から）
図版 3	遺構	1 井戸 1、溝 32 西半、土坑 9（東から） 2 溝 32 東半（北東から） 3 井戸 50（北東から）
図版 4	遺物	出土土器類
図版 5	遺物	出土土器類
図版 6	遺物	出土土器類
図版 7	遺物	出土軒瓦・木製品・石製品
図版 8	遺物	出土金属製品・土製品

挿 図 目 次

図1	調査前全景（西から）	1
図2	作業風景（北西から）	1
図3	調査区および周辺の調査位置図（1：2,500）	2
図4	調査区配置図（1：500）	3
図5	南壁断面図（1：100）	5
図6	遺構平面図（1：100）	6
図7	溝26（北から）	7
図8	溝26、石敷き30、柱穴53・54実測図（1：50）	7
図9	集石45実測図（1：50）	8
図10	土坑9実測図（1：50）	9
図11	土坑10・11、井戸50実測図（1：50）	10
図12	井戸1、溝32実測図（1：50）	11
図13	出土土器実測図1（1：4）	14
図14	出土土器実測図2（1：4）	15
図15	出土土器実測図3（1：4）	17
図16	出土土器実測図4（1：4）	19
図17	出土土器実測図5（1：4）	21
図18	出土土器実測図6（1：4）	23
図19	軒瓦拓影・実測図（1：4）	24
図20	木製品実測図（1：4）	25
図21	金属製品実測図（1：4）	26
図22	石製品・土製品実測図（1：4）	26
図23	漆器製造関連遺物（紙製蓋・漉し布・漉し紙）	27
図24	遺構変遷概要図（1：200）	29

表 目 次

表1	周辺の調査一覧表	2
表2	遺構概要表	4
表3	遺物概要表	13

付 表 目 次

附表1	掲載土器類一覧表	30
附表2	掲載軒瓦一覧表	33
附表3	掲載木製品一覧表	33
附表4	掲載金属製品一覧表	33
附表5	掲載石製品・土製品一覧表	33

平安京左京三条三坊十町（押小路殿・二条殿）跡

1. 調査経過

（1）調査に至る経緯

本調査は、京都市中京区両替町通御池上る金吹町 453 - 1 において計画されたマンション建設に伴う発掘調査である。調査地は平安京左京三条三坊十町にあたる。また、縄文時代から飛鳥時代の集落跡である烏丸御池遺跡、鎌倉時代から室町時代の押小路殿・二条殿、安土桃山時代の二条殿御池城跡でもある。

南隣で 2001 年 10 月から 2002 年 4 月に実施した発掘調査で、鎌倉時代から室町時代の庭園跡を含む遺構が検出され、今回の調査地でも同様の遺構の検出が期待された。調査に先立って実施された京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課の試掘調査でも、遺構の残存状況が良好なことが確認され、発掘調査を行うことになった。発掘調査は、京都市文化財保護課の指導により、財団法人京都市埋蔵文化財研究所が担当した。

（2）調査の経過

調査は、2007 年 4 月 2 日の重機掘削から開始した。場内で掘削土を処理しなければならなかったため、東西の 2 区にわけて調査を実施した。まず、西側に調査対象地（189 m²）の約 2 / 3 の調査区を設けて調査を開始し、約 200 m³の掘削土はダンプカーにて場外搬出した。西側の調査が終了した後に、東側 1 / 3 の調査を実施し、2007 年 5 月 25 日にすべての調査を終了した。

調査中、京都市文化財保護課の現地指導を、4 月 5 日、4 月 17 日、4 月 27 日、5 月 9 日、5 月 18 日の計 5 回受けた。



図1 調査前全景（西から）



図2 作業風景（北西から）

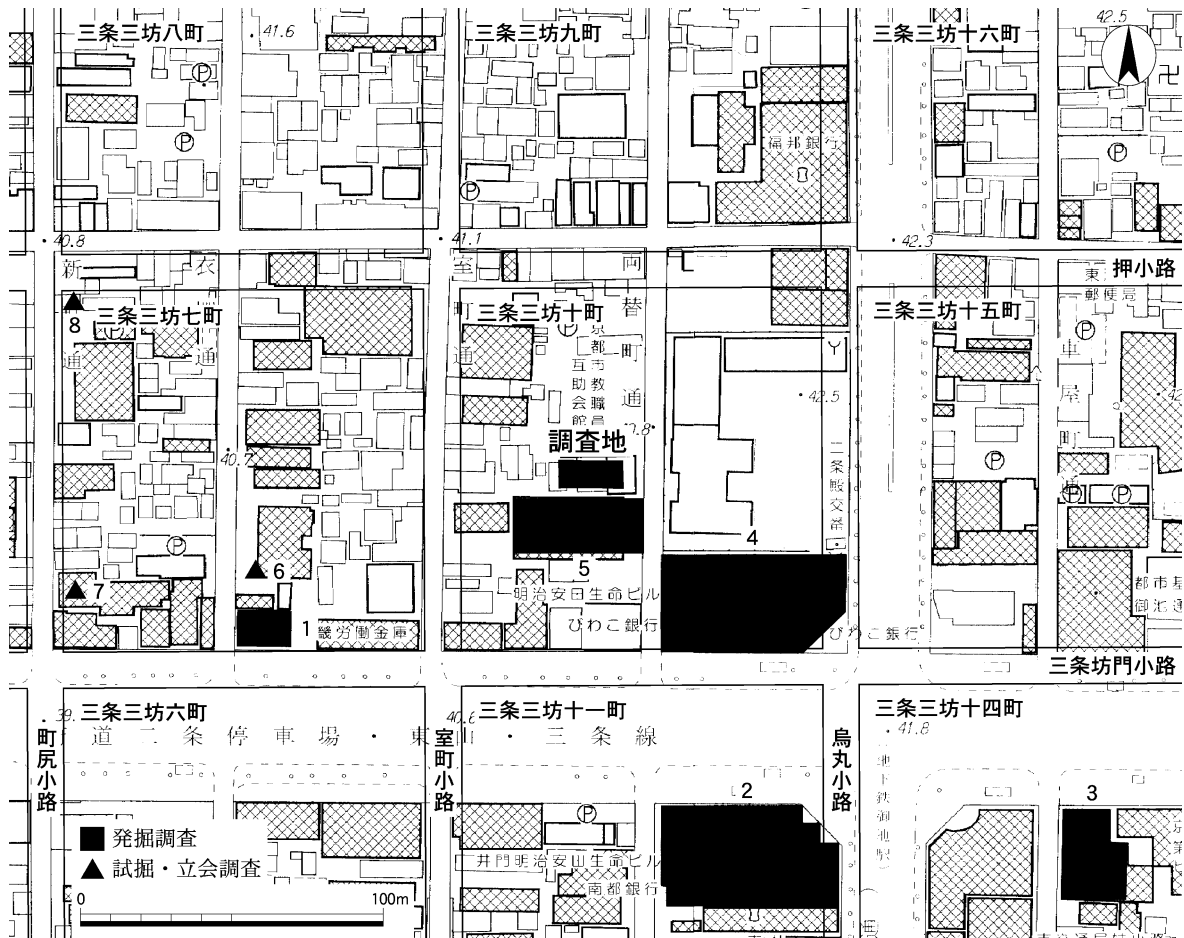


図3 調査区および周辺の調査位置図 (1:2,500)

表1 周辺の調査一覧表

No.	遺跡名	調査期間	遺構	文献
1	左京三条三坊七町	1980.09.01~10.10	古墳時代の遺物包含層、平安時代後期の南北溝・柱穴、鎌倉～室町時代の土坑。	『平安京左京三条三坊 京都労働金庫建設予定地における発掘調査の概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1981年
2	左京三条三坊十一町	1983.09.09~1984.02.04	平安時代中期の烏丸小路西側溝・井戸、鎌倉時代の土坑、室町時代の井戸・土壇墓・火葬墓、江戸時代前期の溝・井戸。	『平安京左京三条三坊十一町』平安京跡研究調査報告 第14輯 (財)古代学協会 1984年
3	左京三条三坊十四町	1992.12.11~1993.03.31	平安時代中期の溝、鎌倉時代の溝・土坑・柱穴、室町時代の溝・井戸・土坑、江戸時代前期～中期の建物・井戸・土坑。	「平安京左京三条三坊」『平成4年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1995年
4	左京三条三坊十町	1966.05.17~06.08, 1977.07.18~09.21, 1980.07.21~10.31	平安時代後期の烏丸小路西側溝・井戸、鎌倉時代の烏丸小路西側溝・井戸、室町時代の溝・井戸・柱穴・土坑、江戸時代の石垣・池・井戸・石室・柱穴・土坑。	「押小路殿の研究」『平安文化の研究1』平安博物館研究紀要 第2輯 1971年、『押小路殿跡 平安京左京三条三坊十一町』平安京跡研究調査報告 第12輯 (財)古代学協会 1984年
5	左京三条三坊十町	2001.10.15~2002.04.12	平安時代中期の井戸2基、鎌倉時代前期の建物1棟、後期の建物1棟・溝1条、室町時代の庭園、中期～後期の建物1棟、桃山～江戸時代初頭の石垣1棟、江戸時代の建物1棟。	『平安京左京三条三坊十町(押小路殿・二条殿)跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2002-7 2002年
6	左京三条三坊七町	1997.09.02~09.03	平安時代後期の柱穴、鎌倉～江戸時代の池、江戸時代後期の土坑・溝。	「平安京左京三条三坊七町(96HL444)」『京都市内遺跡立会調査概報 平成9年度』京都市文化市民局 1998年
7	左京三条三坊七町	1980.04.30~05.03	平安時代後期の土坑、室町時代の木棺墓・土坑、江戸時代の土坑。	『京都市内遺跡試掘・立会調査報告 昭和55年度』京都市埋蔵文化財センター 1981年
8	左京三条三坊七町	1987.11.10	鎌倉～室町時代の落込み。	「主要な出土遺物」『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和62年度』京都市文化観光局 1988年

2. 位置と環境

(1) 位置と環境

調査地は、京都市のビジネス街の中心地で、烏丸通と御池通の交差点の北西に位置する。地形的にみれば、鴨川が形成した扇状地上に立地する。

調査地は、平安京左京三条三坊十町にあたる。また、平安京造営以前の烏丸御池遺跡、鎌倉時代から室町時代の押小路殿・二条殿、安土桃山時代の二条殿御池城跡でもある。烏丸御池遺跡は縄文時代

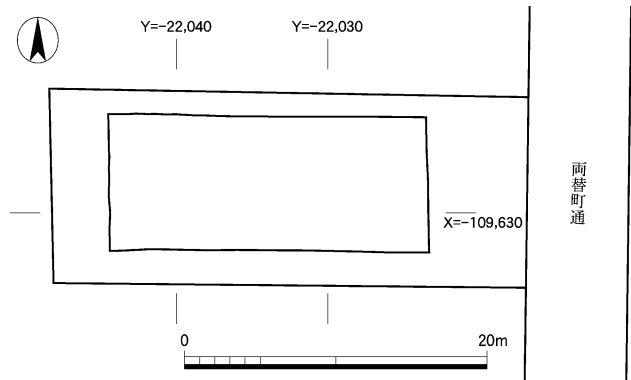


図4 調査区配置図 (1:500)

から飛鳥時代の集落遺跡で、流路・弥生時代の竪穴住居などの遺構、縄文土器・弥生土器などの遺物が検出されている。

平安時代の当地は、中期に後朱雀天皇皇后の陽明門院禎子内親王の邸宅、後期に中納言の藤原家成の邸宅が営まれた。鎌倉時代になって後鳥羽上皇の御所である押小路殿が営まれた。承久の乱の後、押小路殿は藤原道家の所有となり、この藤原二条家の祖である藤原良実を受け継がれ、以後二条殿と称される。二条殿は、竜躍池を中心とした庭園が有名で、洛中洛外図にも描かれている。

安土桃山時代になると、織田信長が二条晴良から当地を譲り受け、二条殿御池城を建てた。後に、誠仁新王へ進上し、下御所と呼ばれたが、本能寺の変において、信長の長男・信忠は、妙覚寺を出て下御所に籠り討死している。江戸時代になると金座・銀座・朱座が設けられた。

(2) 周辺の調査 (図3、表1)

調査地周辺では、多数の発掘調査・立会調査が実施されており、それぞれの調査地点は図3、調査の概要は表1に示した。ここでは、左京三条三坊十町内の発掘調査の概要について述べる。

十町南東部の調査(図3-4)では、平安時代後期から鎌倉時代の烏丸小路西側溝、平安時代後期の井戸、鎌倉時代の井戸、室町時代の溝・井戸・柱穴・土坑、江戸時代の石垣・池・井戸・石室・柱穴・土坑などが検出されている。

今回の調査地の南隣で行われた調査(図3-5)では、平安時代中期から江戸時代後期までの6面の遺構面を確認している。第1・2面は二条殿御池城廃絶後の町屋になった時期(桃山時代から江戸時代後期)、第3~5面は二条殿の時期(室町時代)、第6面が平安時代中期から押小路殿・二条殿の時期(平安時代中期から鎌倉時代後期)である。平安時代中期の井戸、鎌倉時代前期の建物、鎌倉時代後期の建物・溝、室町時代の庭園・建物、桃山時代から江戸時代初頭の石垣、江戸時代前期から後期の建物などの遺構が検出されている。

3. 遺 構

(1) 基本層序 (図5)

基本層序は、地表下0.4～0.8mが現代盛土である。以下、西側では地表下2.0mまでは、焼土・漆喰を含む近代から幕末の各層が堆積し遺構面となる。東側では、地表下1.0mまでは近代から幕末の各層が堆積し、その下に江戸時代の整地層2層(図5-42・43)が約0.7m堆積し遺構面となる。調査区の東端で、地山(黄褐色シルト)上に平安時代の土師器の細片を含む層(褐色シルト)によって整地された遺構面を検出した。

(2) 遺構

1) 遺構の概要 (表2)

検出した遺構の主なものは、江戸時代初期の土坑(土取穴)・井戸、江戸時代後期の土坑・井戸・溝(建物の基礎)である。押小路殿に関連すると考えられる平安時代後期から鎌倉時代の遺構として、建物に伴うと思われる雨落ち溝の一部と敷石遺構を検出した。二条殿に関連すると考えられる室町時代の遺構として、土坑を検出した。

2) 平安時代後期から鎌倉時代の遺構 (図6～9、図版1)

土坑22 調査区中央部の北西で検出した土坑である。西肩の一部のみの検出で規模・形状とも不明である。埋土はにぶい黄褐色粘質土で、土師器の皿が出土している。

土坑23 調査区中央部の北辺で検出した土坑である。東肩の一部のみの検出で規模・形状とも不明である。埋土はにぶい黄褐色粘質土で、土師器の皿が出土している。

土坑24 調査区中央部の北辺で検出した土坑である。北肩の一部のみの検出で規模・形状とも不明である。埋土はにぶい黄褐色粘質土で、土師器の皿が出土している。

土坑25 土坑24の北に接して検出した土坑である。南肩の一部のみの検出で規模・形状とも不明である。埋土はにぶい黄褐色粘質土で、土師器の皿が出土している。

表2 遺構概要表

時 代	遺 構
平安時代後期 ～鎌倉時代	土坑22～25・56、溝26、石敷き30、集石45、柱穴53・54・57
室町時代	土坑20・27
江戸時代初期	土坑7・9～11・16～19・28・40・48、井戸50
江戸時代後期	土坑8・13・15・33・37・38、井戸1・44、溝32

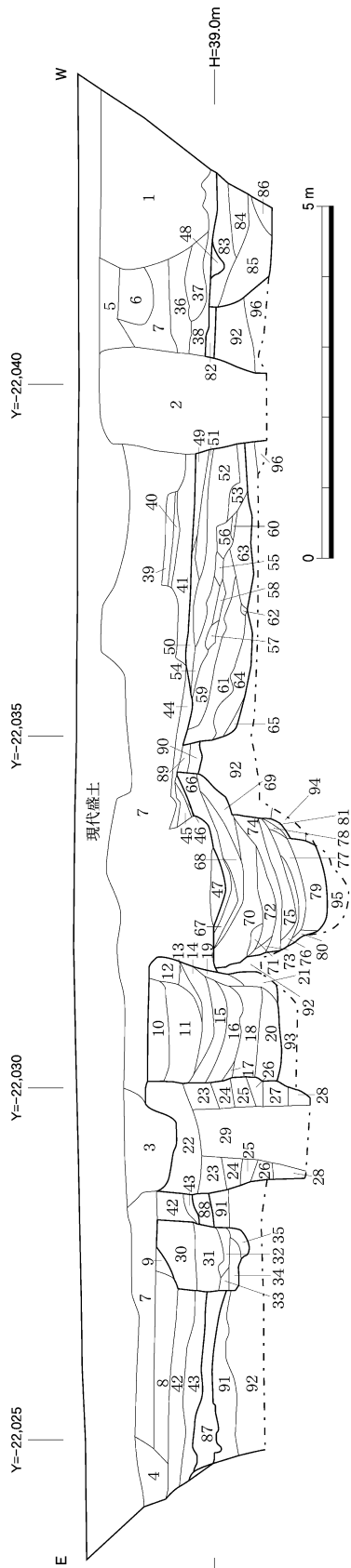


図5 地層断面図 (1:100)

- | | | | |
|----|---|----|-------------------------------------|
| 1 | 10YR 4/3 にぶい黄褐色粘質土 炭少量混 | 65 | 10YR 4/2 灰黄褐色シルト 炭少量混 (土坑7) |
| 2 | 10YR 4/3 にぶい黄褐色粘質土 炭少量混 | 66 | 10YR 4/2 灰黄褐色粘質土 炭・土師片少量混 (土坑20) |
| 3 | 10YR 5/1 褐灰色砂質土 炭少量混 | 67 | 7.5YR 3/2 黒褐色粘質土 炭少量 土師片中量混 (土坑20) |
| 4 | 10YR 4/2 灰黄褐色粘質土 | 68 | 10YR 5/3 にぶい黄褐色シルト (土坑20) |
| 5 | 10YR 4/6 褐色粘質土 | 69 | 10YR 4/2 灰黄褐色粘質土 φ1~6cmの礫少量混 (土坑20) |
| 6 | 2.5Y 4/4 オリーブ褐色粗砂 | 70 | 2.5Y 3/2 黒褐色粘質土 炭少量 土師片多量混 (土坑20) |
| 7 | 2.5Y 3/3 暗オリーブ褐色粘質土 | 71 | 10YR 4/4 褐色シルト (土坑20) |
| 8 | 10YR 4/4 褐色粘質土 | 72 | 2.5Y 3/1 黒褐色粘質土 炭中量 土師片少量混 (土坑20) |
| 9 | 2.5Y 3/3 暗オリーブ褐色粘質土 | 73 | 10YR 4/4 褐色シルト (土坑20) |
| 10 | 2.5Y 4/2 暗灰黄色粘質土 (土坑13) | 74 | 2.5Y 3/3 暗オリーブ褐色粘質土 土師片少量混 (土坑20) |
| 11 | 2.5Y 4/3 オリーブ褐色粘質土 φ1~10cmの礫少量混 (土坑13) | 75 | 10YR 4/2 灰黄褐色粘質土 土師片少量混 (土坑20) |
| 12 | 2.5Y 5/4 黄褐色粘質土 (土坑13) | 76 | 5Y 4/1 灰色粘質土 (土坑20) |
| 13 | 10YR 4/2 灰黄褐色粘質土 少礫多量混 (土坑13) | 77 | 7.5Y 3/2 オリーブ黒色粘質土 (土坑20) |
| 14 | 10YR 3/3 暗褐色砂礫 φ1~7cmの礫多量混 (土坑13) | 78 | 5Y 4/1 灰色シルト (土坑20) |
| 15 | 7.5YR 3/2 黒褐色粘質土 (土坑13) | 79 | 10Y 4/1 灰色粘質土 木片少量混 (土坑20) |
| 16 | 10YR 3/2 黒褐色粘質土 炭少量混 (土坑13) | 80 | 10Y 4/1 灰色粘土 (土坑20) |
| 17 | 2.5Y 3/2 黒褐色粘質土 (土坑13) | 81 | 7.5Y 5/1 灰色粘質土 (土坑20) |
| 18 | 10YR 4/3 にぶい黄褐色粘土 (土坑13) | 82 | 10YR 4/6 褐色砂礫 φ1~12cmの礫多量混 (石敷き30) |
| 19 | 2.5Y 3/3 暗オリーブ褐色粘質土 φ5~10cmの礫多量混 (土坑13) | 83 | 10YR 4/6 褐色シルト 炭・土師片少量混 (土坑31) |
| 20 | 2.5Y 3/1 黒褐色粘質土 φ5~15cmの礫多量混 (土坑13) | 84 | 10YR 3/4 暗褐色粘質土 炭・土師片少量混 (土坑31) |
| 21 | 2.5Y 4/4 オリーブ褐色粘質土 (土坑13) | 85 | 10YR 4/4 褐色シルト 炭・土師片少量混 (土坑31) |
| 22 | 10YR 4/4 褐色粘質土 φ1~10cmの礫少量混 (井戸44) | 86 | 10YR 3/2 黒褐色粘質土 炭・土師片少量混 (土坑31) |
| 23 | 10YR 5/4 にぶい黄褐色粘質土 (井戸44) | 87 | 10YR 2/3 黒褐色粘質土 (土坑49) |
| 24 | 2.5Y 4/1 黄褐色粘質土 (井戸44) | 88 | 10YR 4/6 褐色砂質土 (土坑58) |
| 25 | 2.5Y 4/2 暗灰黄色粘質土 (井戸44) | 89 | 10YR 4/3 にぶい黄褐色粘質土 |
| 26 | 7.5YR 4/6 褐色粘質土 (井戸44) | 90 | 10YR 3/4 暗褐色シルト (地山) |
| 27 | 10YR 3/4 暗褐色粘質土 φ1~8cmの礫多量混 (井戸44) | 91 | 10YR 5/6 黄褐色シルト (地山) |
| 28 | 2.5Y 3/3 暗オリーブ褐色粘質土 (井戸44) | 92 | 10YR 5/4 黄褐色シルト (地山) |
| 29 | 2.5Y 3/2 黒褐色粘質土 (井戸44) | 93 | 5Y 4/2 暗オリーブ色粘質土 (地山) |
| 30 | 2.5Y 3/2 黒褐色粘質土 (土坑52) | 94 | N 4/0 灰色細砂 (地山) |
| 31 | 2.5Y 3/3 暗オリーブ褐色粘質土 (土坑52) | 95 | 10YR 4/3 にぶい黄褐色砂礫 (地山) |
| 32 | 2.5Y 4/2 暗灰黄色砂質土 (土坑52) | 96 | 10YR 3/3 暗褐色粗砂 (地山) |
| 33 | 2.5Y 4/1 黄褐色粘土 (土坑52) | | |
| 34 | 10YR 4/2 灰黄褐色シルト (土坑52) | | |
| 35 | 10YR 4/2 灰黄褐色シルト 少礫混 (土坑52) | | |
| 36 | 10YR 4/2 灰黄褐色粘質土 | | |
| 37 | 10YR 4/3 にぶい黄褐色粘質土 | | |
| 38 | 10YR 4/3 にぶい黄褐色シルト | | |
| 39 | 5Y 4/3 暗オリーブ粘質土 | | |
| 40 | 2.5Y 4/3 オリーブ褐色粘質土 | | |
| 41 | 2.5Y 4/2 暗灰黄色粘質土 | | |
| 42 | 10YR 4/3 にぶい黄褐色粘質土 | | |
| 43 | 10YR 5/1 褐灰色砂質土 | | |
| 44 | 10YR 4/6 褐色シルト (包含層) | | |
| 45 | 10YR 3/3 暗褐色粘質土 | | |
| 46 | 10YR 4/4 褐色シルト | | |
| 47 | 10YR 3/2 黒褐色粘質土 炭少量 土師片中量混 | | |
| 48 | 2.5Y 4/3 オリーブ褐色粘質土 (柱穴4) | | |
| 49 | 2.5Y 3/3 暗オリーブ粘質土 炭少量混 (土坑7) | | |
| 50 | 10YR 4/3 にぶい黄褐色粘質土 炭少量混 (土坑7) | | |
| 51 | 7.5YR 4/6 褐色粘質土 (土坑7) | | |
| 52 | 5B 5/1 青灰色粘質土 (土坑7) | | |
| 53 | 5Y 4/1 灰色シルト (土坑7) | | |
| 54 | 10YR 3/4 暗褐色粘質土 炭・土師片少量混 (土坑7) | | |
| 55 | 10YR 3/3 暗褐色粘質土 シルト多量混 (土坑7) | | |
| 56 | 2.5Y 2/1 黒色粘質土 炭・木片少量混 (土坑7) | | |
| 57 | 10YR 4/3 にぶい黄褐色シルト 炭少量混 (土坑7) | | |
| 58 | 10YR 3/2 黒褐色粘質土 炭中量混 (土坑7) | | |
| 59 | 10YR 3/3 暗褐色粘質土 炭・土師片少量 φ1~5cmの礫少量混 (土坑7) | | |
| 60 | 5Y 4/1 灰色シルト (土坑7) | | |
| 61 | 7.5YR 3/3 暗褐色砂質土 炭少量 φ1~10cmの礫中量混 (土坑7) | | |
| 62 | 10YR 4/3 にぶい黄褐色シルト 炭少量混 (土坑7) | | |
| 63 | 5B 4/1 暗青灰色粘土 炭・木片少量 φ1~5cmの礫少量混 (土坑7) | | |
| 64 | 2.5Y 4/4 オリーブ褐色シルト (土坑7) | | |

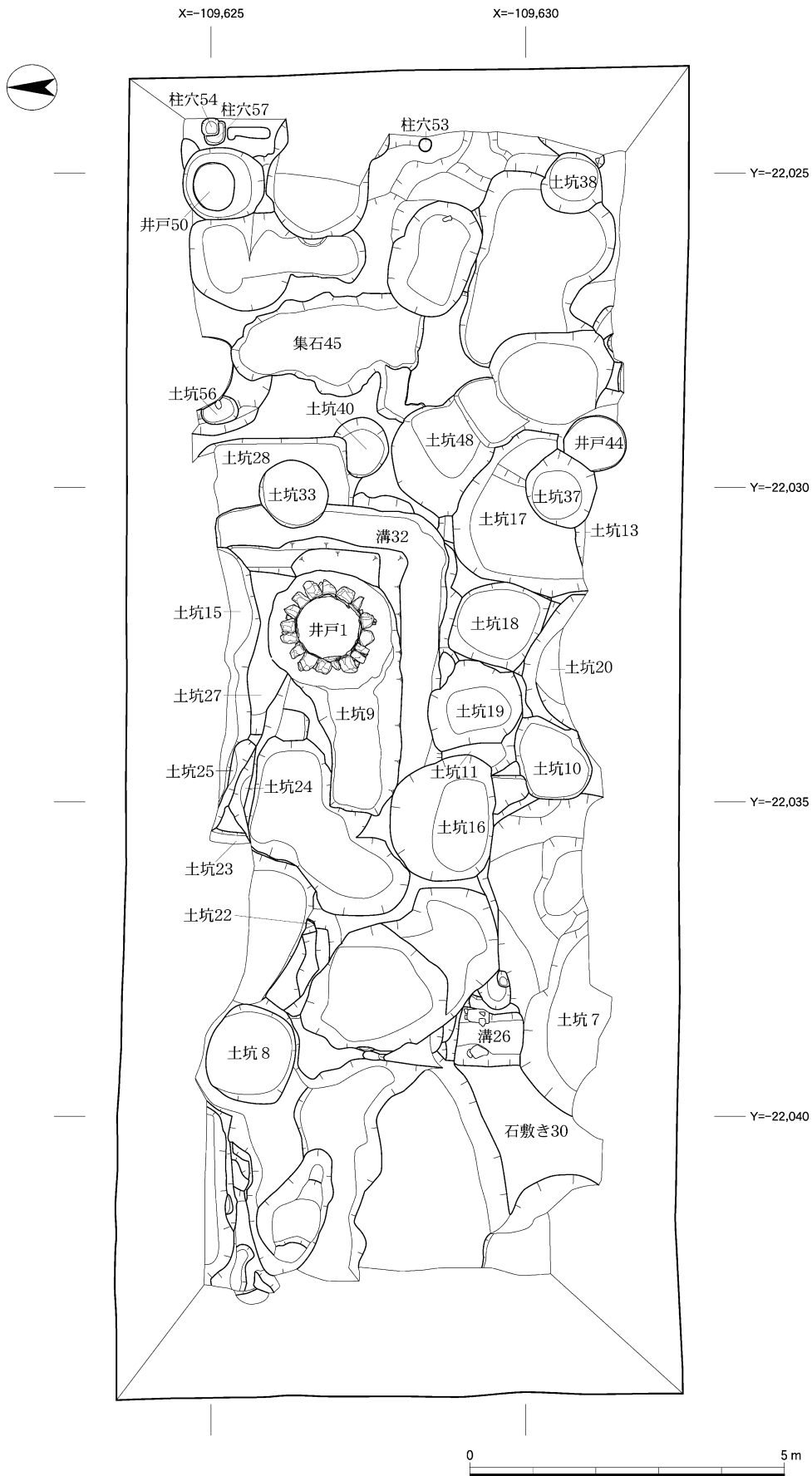


図6 遺構平面図 (1 : 100)

溝 26 (図 7・8) 調査区西部で検出した南北方向の溝である。幅は 0.95 m、現存長は 1.1m、深さは 0.35m ある。底部の両肩に河原石を据えてある。埋土は褐色シルトを中心とし、土師器、緑釉陶器、軒平瓦などが出土している。



図 7 溝 26 (北から)

石敷き 30 (図 8) 溝 26 の西側で、径 1～5 cm 大の礫を多く含んだ厚さ約 10 cm の整地層である。東西幅は 2.4m 以上ある。整地土は褐色砂礫層で、堅く搗き固められている。土師器、須恵器、緑釉陶器、瓦器、輸入白磁、瓦などが出土している。

集石 45 (図 9) 調査区東部で検出した溝状の土坑で、坑内に径 10～20 cm 大の礫が投げ込まれた状態で出土している。幅は約 1.2～1.6m、長さは南側を後世の土坑に破壊されているため不明だが、現存長は 3.7m ある。埋土は上から褐色シルト、暗褐色粘質土、にぶい黄褐色粘質土が集石の上層で、集石の下層に灰黄褐色粘質土、暗褐色粘質土が堆積している。土師器、緑釉陶器、輸入白磁・青磁、瓦などが出土している。

柱穴 53 (図 8) 調査区の東端中央で検出した円形の柱穴である。径約 0.2m、深さ 0.15m で、土師器の皿などが出土している。

柱穴 54 (図 8) 調査区北東隅で検出した円形の柱穴である。径 0.3m、深さ 0.4m で、埋土は暗褐色粘質土を中心とする。土師器の皿が出土している。

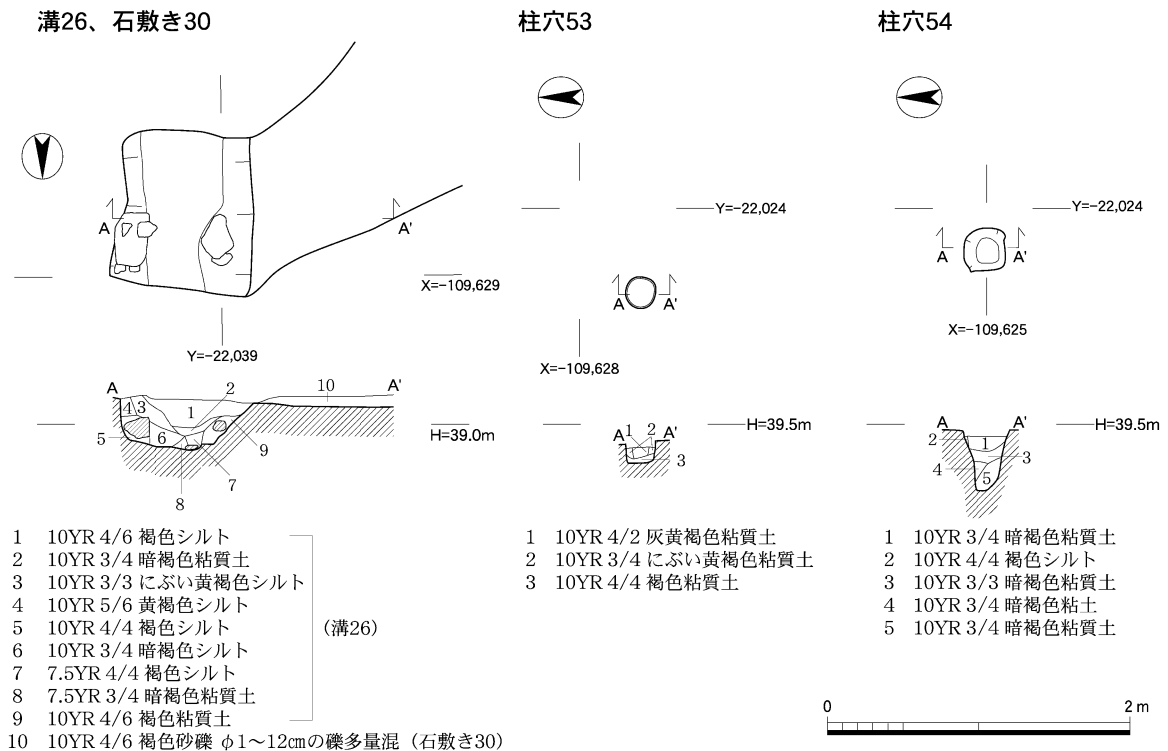


図 8 溝 26、石敷き 30、柱穴 53・54 実測図 (1 : 50)

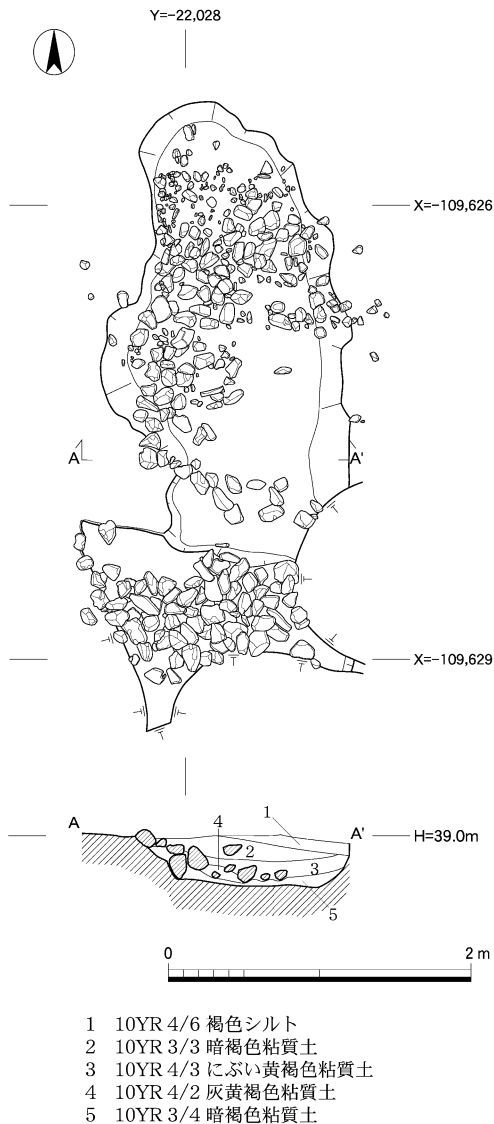


図9 集石 45 実測図 (1 : 50)

土坑 56 調査区東部の北辺で検出した楕円形の土坑である。北東隅を後世の遺構に破壊されているが、幅は約 0.45m、長さ 0.6m で、深さは 0.1m である。埋土は暗褐色粘質土で、土師器の皿などが出土している。

柱穴 57 柱穴 54 に破壊された一辺 0.35m の隅丸方形の柱穴である。深さは約 0.3m で、埋土は明黄褐色シルトを中心とする。

3) 室町時代の遺構 (図 6、図版 1)

土坑 20 調査区中央部の南壁沿いで検出した半円形の土坑である。南半が調査区外にのびるので形状・規模は不明であるが、おそらくは円形になると思われる。検出幅は 2.7m、深さは 2.1m ある。埋土は褐色・黒褐色のシルトを中心に堆積し、土師器、瓦器、施釉陶器 (瀬戸)、焼締陶器、瓦、漆器、木製品などが出土している。特に土師器の皿が多く、遺物整理箱で 6 箱分出土している。井戸枠などの施設を検出できなかったが、湧水層である地山の砂礫層まで掘り込まれているので、井戸の掘形部分を検出した可能性が高いと思われる。

土坑 27 調査区中央部の北辺で検出した土坑である。西肩の一部のみの検出で規模・形状とも不明である。埋土はにぶい黄褐色粘質土で、土師器、瓦器、施釉陶器、瓦などが出土している。

4) 江戸時代初期の遺構 (図 6・10～11、図版 2・3)

土坑 7 調査区中央部の南壁沿いで検出した半円形の土坑である。南半が調査区外にのびるので形状・規模は不明であるが、現存の東西長は約 5.0m である。深さは約 1.0m で、埋土は暗褐色・黒褐色の粘質土を中心とし、下層には還元されて暗青灰色になった粘土層が堆積している。土師器、土師質土器、施釉陶器、軟質施釉陶器、焼締陶器、木製品、漆、漆器、瓦などが出土している。また、特筆すべき遺物として琥珀の原石がある。

土坑 9 (図 10、図版 3-1) 調査区中央部で検出した矩形の土坑である。井戸 1・溝 32 に破壊されている。幅は 1.1～1.6m、長さ 2.8m、深さは 0.7m ある。底部から約 0.25m の厚さで土

を盛り、その上に厚さ 1.0 ～ 2.0 cm の板を敷き、川原石を 3 石表面が平になるように据え付けている。石の隙間に径 5.0 ～ 10.0 cm 大の礫を詰めている。土師器、土師質土器、施釉陶器、焼締陶器、輸入青花磁器、瓦などが出土している。遺構の性格は不明である。

土坑 10 (図 11) 調査区中央部の南辺で検出した隅丸矩形の土坑である。幅 1.05m、長さ約 1.4m、深さは 0.55m ある。埋土は暗オリーブ褐色粘質土を中心とし、土師器、瓦器、施釉陶器、輸入青花磁器、焼締陶器、瓦などが出土している。

土坑 11 (図 11) 調査区中央部で検出した溝状の堆積層で、土坑 16・18・19 の上を覆っており、土取穴群の最終堆積層だと考えられる。土坑 16 と土坑 19 の間に一部堆積層を残している。幅は 1.35m、深さは 0.5m ある。埋土は暗灰黄色粘質土を中心とし、土師器、瓦器、施釉陶器、焼締陶器、輸入青花磁器、瓦などが出土している。

土坑 16 調査区中央部で検出した楕円形の土坑である。長軸長約 2.0m、短軸長約 1.6m、深さ約 0.6m ある。埋土は暗褐色粘質土を中心とし、底部に 5 cm の炭化物層が堆積している。土師器、瓦器、施釉陶器、焼締陶器、輸入青花磁器、瓦などが出土している。また、特筆すべき遺物として漆のゴミを取り除くのに用いられた漆漉し布・紙、漆を入れた容器の蓋に用いられたと考えられる紙が出土しており、周辺に関連の工房があった可能性が高い。

土坑 17 調査区中央部と東部に跨がった南壁沿いで検出した半円形の土坑である。南半が調査区外にのびるので形状・規模は不明であるが、おそらくは円形になると思われる。径約 2.5m で、深さは約 0.4m ある。埋土は暗褐色粘質土を中心とし、土師器、瓦器、施釉陶器、焼締陶器、輸入青花磁器、瓦などが出土している。

土坑 18 調査区中央部で検出した不整形の土坑である。径は約 1.3m で、深さは約 0.35m である。埋土は黒褐色粘質土を中心とし、底部に 5 cm の炭化物層が堆積している。土師器、瓦器、施釉陶器、焼締陶器、輸入青花磁器、瓦などが出土している。

土坑 19 調査区中央部で土坑 18 と土坑 16 の間で検出した不整形な土坑である。南北長 1.4m、

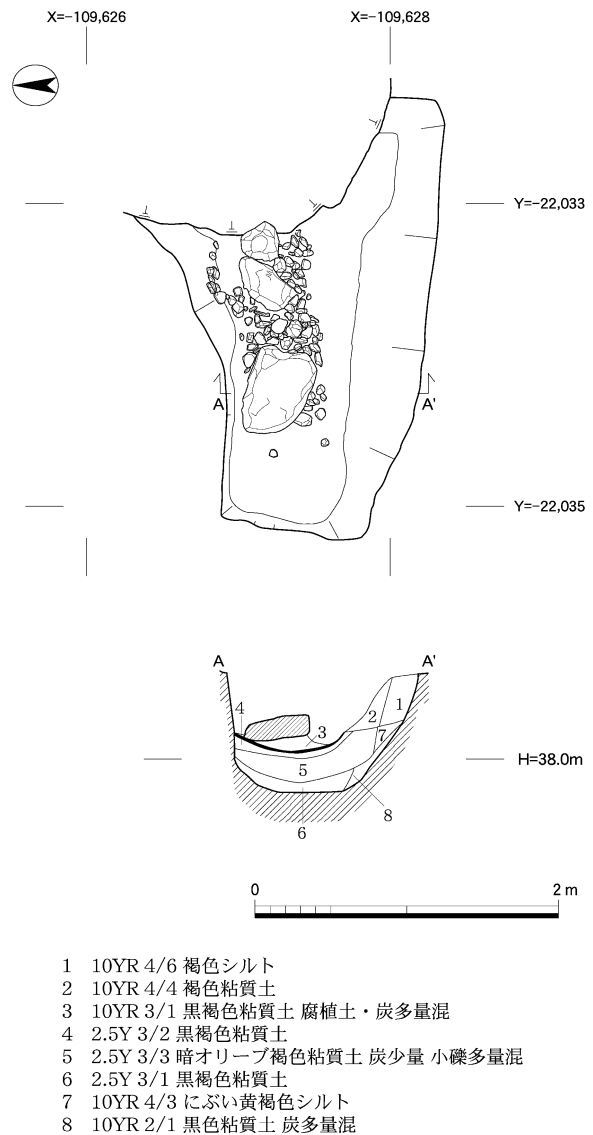


図 10 土坑 9 実測図 (1 : 50)

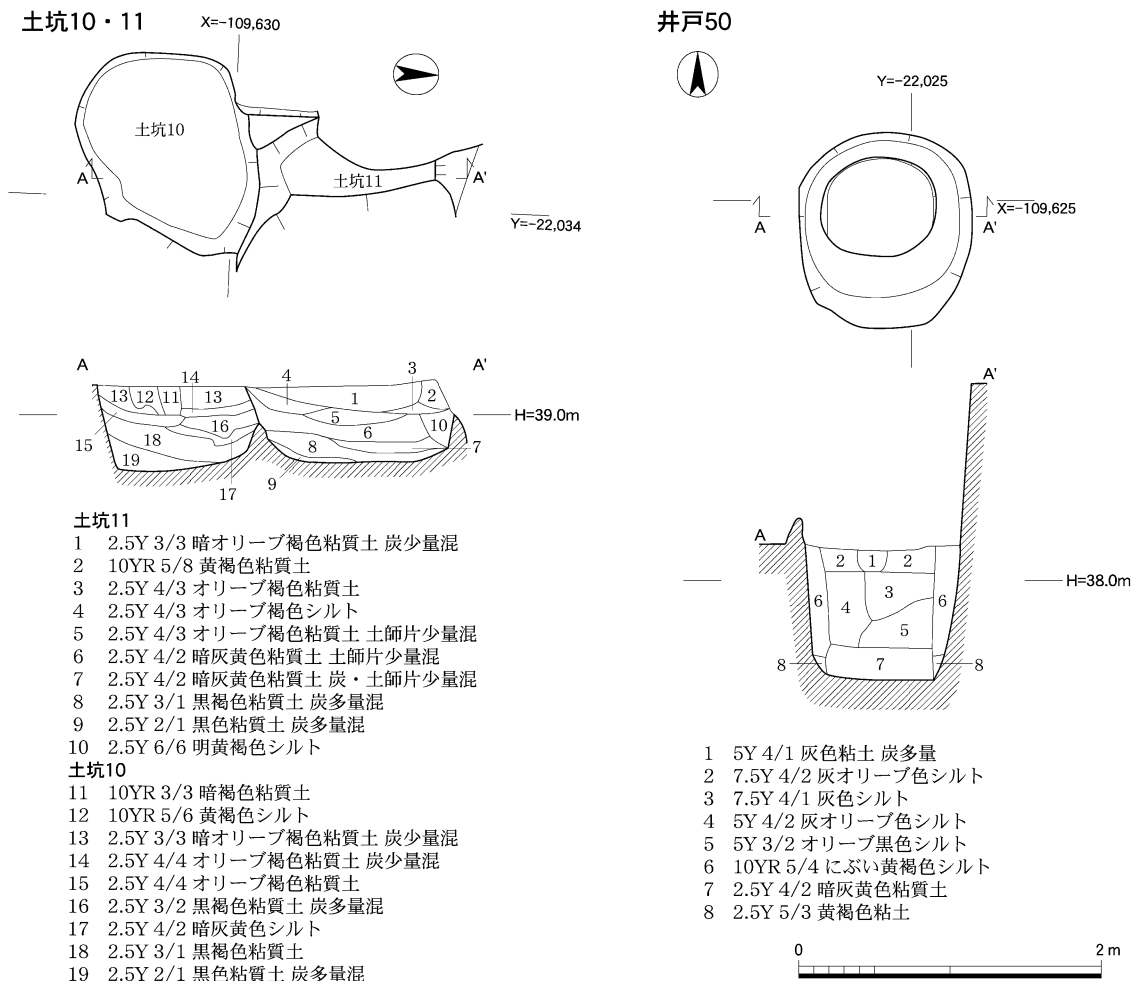


図 11 土坑 10・11、井戸 50 実測図 (1 : 50)

東西長 1.5m で、深さは 0.35m ある。埋土はオリーブ褐色粘質土を中心とし、底部に 5 cm の炭化物層が堆積している。土師器の皿・焼塩壺、施釉陶器（唐津）の椀・皿、焼締陶器（備前）の捏鉢、輸入青花磁器の椀、石製品の碁石・砥石、瓦などが出土している。

土坑 28 調査区東部の北壁沿いで検出した方形の土坑である。南北幅 2.35m、東西幅は 2.1m、深さ約 0.7m ある。埋土は暗褐色粘質土を中心とし、土師器、瓦器、施釉陶器、焼締陶器、輸入青花磁器、瓦などが出土している。

土坑 40 調査区東部で検出した、土坑 28 の南東部を破壊した円形の土坑である。径約 0.95m で深さは 0.3m ある。埋土は黒褐色砂質土を中心とし、土師器の皿、施釉陶器（唐津）の椀などが出土している。

土坑 48 調査区東部で検出した土坑である。土坑 17 に破壊されていたため形状・規模は不明である。深さは約 0.6m で、埋土は暗褐色粘質土で、土師器、軟質施釉陶器、埴塼、鉄製品、漆器、瓦などが出土している。

井戸 50 (図 11、図版 3- 3) 調査区北東隅で検出した楕円形の掘形をもつ井戸である。掘形の南北径は約 1.3m、東西径 1.1m で、内法約 0.7m の円形の桶を井戸枠とする。深さは約 2.1m で、井戸枠内の埋土は灰オリーブ色シルトを中心とし、土師器、瓦器、施釉陶器、焼締陶器、輸入青

花磁器、瓦などが出土している。

5) 江戸時代後期の遺構 (図6・12、図版2・3)

検出した大半の遺構は不整形な土坑である。現代盛土の下から掘り込まれたものが多く、地山の砂礫層まで掘り込まれたものが多い。埋土に漆喰・焼土・炭化物などを含み、火災後の廃材、塵芥などを廃棄するために掘られた土坑と考えられる。特に調査区の西側に集中している。

井戸1 (図12) 調査区中央部で検出した円形の掘形をもつ井戸である。掘形の直径約2.1m、内法約1.0m、深さ約1.25mの円形石組井戸である。深さは1.6m以上、井戸枠内の埋土は暗灰黄色砂質土である。使用されている石は0.15～0.3m大の花崗岩の割石で、小口の平滑な面を内側に向けて積上げられている。土師器、土師質土器、肥前磁器、瓦などが出土している。

土坑8 調査区西部の北辺で、廃棄土坑の底部で検出した円形の土坑である。井戸枠は検出なかったが、地山の砂礫層を0.3m以上掘り込んでいるので、井戸の可能性が考えられる。径は約1.4mである。埋土はオリーブ褐色粘質土で、土師器、土師質土器、肥前磁器、瓦などが出土

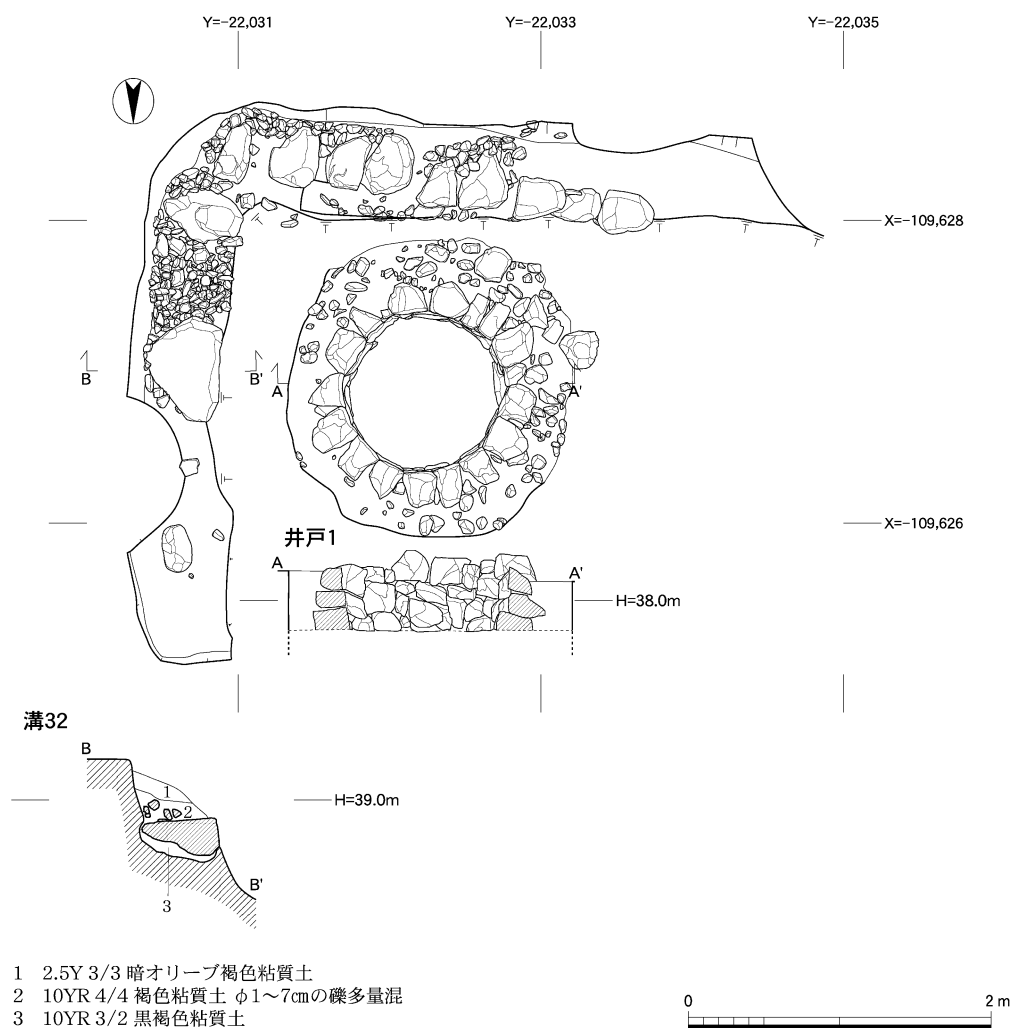


図12 井戸1、溝32実測図 (1:50)

している。

土坑 13 調査区中央部と東部に跨った南壁沿いで検出した半円形の土坑である。南半が調査区外にのびるので形状・規模は不明である。現存幅 1.75m、深さは 2.1m ある。埋土は黒褐色粘質土を中心にし、土師器、土師質土器、施釉陶器、焼締陶器、肥前磁器、瓦などが出土している。

土坑 15 調査区中央部の北壁沿いで検出した土坑である。北半が調査区外にのびるので形状・規模は不明である。現存幅 4.1m、深さは 0.8m 以上ある。埋土は黒色粘質土を中心にし、土師器、施釉陶器、焼締陶器、肥前磁器、瓦などが出土している。

溝 32 (図 12、図版 3-1・3-2) 調査区中央部で検出した逆 L 字形の溝である。溝の内側の肩が破壊されているため幅は不明である。南北の長さは 3.5m、東西の溝は西側が破壊されているが、現存長は 3.5m ある。底部に大きさ 20 cm × 30 cm ~ 50 cm × 70 cm の河原石を据え付けている。部分的に底部と石の間に板を敷いた箇所がある。また、土坑 9 と重なる地点では石を 2 段に積んでいる。石の隙間に径 5.0 ~ 10.0 cm 大の礫を詰めている。埋土は上層が暗オリーブ褐色粘質土、下層が褐色粘質土で 5.0 ~ 10.0 cm 大の礫を多く含む。石と底部の間には黒褐色粘質土が堆積している。土師器、瓦器、施釉陶器、肥前磁器、瓦などが出土している。土蔵の基礎と考えられる。

土坑 33 調査区東部で検出した円形の土坑である。径約 1.0m で、深さは 1.2m 以上ある。埋土は暗褐色粘質土を中心とし、漆喰を多く含む。土師器、瓦器、施釉陶器、肥前磁器、瓦などが出土している。地山の砂礫層を掘り込んでいるので、井戸の可能性が考えられる。

土坑 37 調査区東部の南壁沿いで検出した円形の土坑である。径約 1.15m、深さは 1.3m 以上ある。埋土は暗褐色粘質土を中心とし、漆喰を多く含む。土師器、瓦器、施釉陶器、肥前磁器、瓦などが出土している。地山の砂礫層を掘り込んでいるので、井戸の可能性が考えられる。

土坑 38 調査区南東部で検出した円形の土坑である。径約 0.9m、深さは 1.6m 以上ある。埋土は暗褐色粘質土を中心とし、漆喰を多く含む。土師器、瓦器、施釉陶器、肥前磁器、瓦などが出土している。地山の砂礫層を掘り込んでいるので、井戸の可能性が考えられる。

井戸 44 調査区東部の南壁沿いで検出した円形の井戸である。南半が調査区外にのび、また西側を土坑 13 によって破壊されているために規模は不明であるが、内法約 12.0m の円形の桶を井戸枠とする。深さは約 2.4m 以上で、井戸枠内の埋土は黒褐色粘質土を中心とし、土師器、瓦器、施釉陶器、焼締陶器、瓦などが出土している。

4. 遺 物

(1) 遺物の概要 (表 3)

今回の調査で出土した遺物は、整理箱 50 箱で内 3 箱は木製品である。大半が土器類で、瓦、木製品、金属製品、石製品、土製品などが混じる。

古墳時代の遺物には須恵器の提瓶があり後世の遺構から出土している。

平安時代前期の遺物は後世の遺構から出土しており、土師器の杯、須恵器の甕、緑釉陶器の椀、

灰釉陶器の椀、黒色土器の椀などが出土している。

平安時代後期から鎌倉時代の遺物は溝・土坑・柱穴から出土しており、土師器の皿、瓦器の椀、軒丸瓦・軒平瓦などが出土している。

室町時代の遺物は土坑から出土し、土師器の皿、瓦器の椀・羽釜・鍋、施釉陶器の皿・鉢・壺などが出土している。

江戸時代初期の遺物は、主に土取穴と思われる土坑・井戸から出土し、土師器の皿、土師質の焼塩壺、輸入青花磁器の椀・皿、施釉陶器の椀・皿・鉢、軟質施釉陶器（初期京焼）の椀・鉢、焼締陶器の甕・挿鉢、木製品の下駄・箸・曲物の底、曲物容器に入った漆・漆を濾過した布などの漆器を製作するのに使用された道具類が出土している。

江戸時代後期の遺物は、土坑・井戸・溝から出土し、土師器の皿、肥前磁器の椀・皿、施釉陶器の椀・急須、焼締陶器の挿鉢・甕などが出土している。

(2) 土器類 (図 13～18、図版 4～6、付表 1)

1) 平安時代後期から鎌倉時代の土器類 (図 13、図版 4)

柱穴 53 出土土器 (1・2) (図 13、図版 4) いずれも土師器の皿である。底部から内湾しながら口縁部が外上方にのびる。口縁端部は丸味をおびる。口縁部は 2 段ナデによる調整を施す。体部に指オサエ痕が残る。

表 3 遺物概要表

時代	内容	コンテナ箱数	Aランク点数	Bランク箱数	Cランク箱数
古墳時代	須恵器				
平安時代前期	土師器、須恵器、黒色土器、緑釉陶器、灰釉陶器				
平安時代後期～鎌倉時代	土師器、白磁、瓦		土師器17点、白磁1点、軒丸瓦1点、軒平瓦2点		
室町時代	土師器、土師質土器、輸入磁器、瓦質土器、施釉陶器、軒平瓦、木製品、金属製品		土師器23点、土師質土器2点、輸入磁器4点、瓦質土器6点、施釉陶器2点、軒平瓦2点、木製品8点、金属製品1点		
江戸時代初期	土師器、土師質土器、ルツボ、輸入磁器、瓦質土器、施釉陶器、軟質施釉陶器、焼締陶器、木製品、金属製品、土製品、石製品、漆器製造関係遺物		土師器18点、土師質土器13点、ルツボ1点、輸入磁器3点、瓦質土器5点、施釉陶器45点、軟質施釉陶器2点、焼締陶器1点、木製品4点、金属製品12点、土製品3点、石製品3点、漆器製造関係遺物5点		
江戸時代後期	土師器、土師質土器、肥前磁器、施釉陶器、焼締陶器		土師器2点、土師質土器3点、肥前磁器11点、施釉陶器5点、焼締陶器1点		
合計		60箱	206点 (10箱)	50箱	0箱

※ コンテナ箱数の合計は、整理後、Aランクの遺物を抽出したため、出土時より10箱多くなっている。

柱穴 54 出土土器 (3) (図 13、図版 4) 土師器の皿である。平らな底部から内湾しながら口縁部が外上方にのびる。口縁端部は丸味をおびる。口縁部は 2 段ナデ、体部内面はヨコナデ、内底面は仕上げナデを施す。

土坑 24 出土土器 (4~10) (図 13、図版 4) 4・5 はいわゆるコースター形の土師器の皿である。平らな底部から内側につよく折れ曲がる口縁部からなる。口縁部と内面はナデ調整を施す。6 は丸味をおびた底部から体部が内湾気味に開く。7・8 は口径 8.9~9.8 cm の小型の皿である。9・10 は口径 13.0~14.0 cm の大型の皿である。平らな底部から内湾しながら口縁部が外上方にのびる。口縁端部は丸味をおびる。口縁部はヨコナデによる調整を施す。内底面は仕上げナデを施し、底面は無調整である。内面体部下半に指オサエ痕が残る。

土坑 25 出土土器 (11~14) (図 13) 11 はコースター形の土師器の皿である。12・13 は小型、14 は大型の土師器の皿である。平らな底部から内湾しながら口縁部が外上方にのびる。口縁端部は丸味をおびる。口縁部はヨコナデによる調整を施す。内底面は仕上げナデを施し、底面は無調整である。内面体部下半に指オサエ痕が残る。

溝 26 出土土器 (15~17) (図 13) 15 は小型、16 は大型の土師器の皿である。平らな底部から内湾しながら口縁部が外上方にのびる。口縁端部は丸味をおびる。口縁部はヨコナデによる調整を施す。内底面は仕上げナデを施し、底面は無調整である。内面体部下半に指オサエ痕が残る。

17 は輸入白磁の椀である。体部は内湾気味に外上方にのび、口縁端部は外傾する。

集石 45 出土土器 (18) (図 13) 小型の土師器の皿である。平らな底部から内湾しながら口縁部が外上方にのびる。口縁端部は丸味をおびる。口縁部はヨコナデによる調整を施す。内底面は仕上げナデを施し、底面は無調整である。内面体部下半に指オサエ痕が残る。

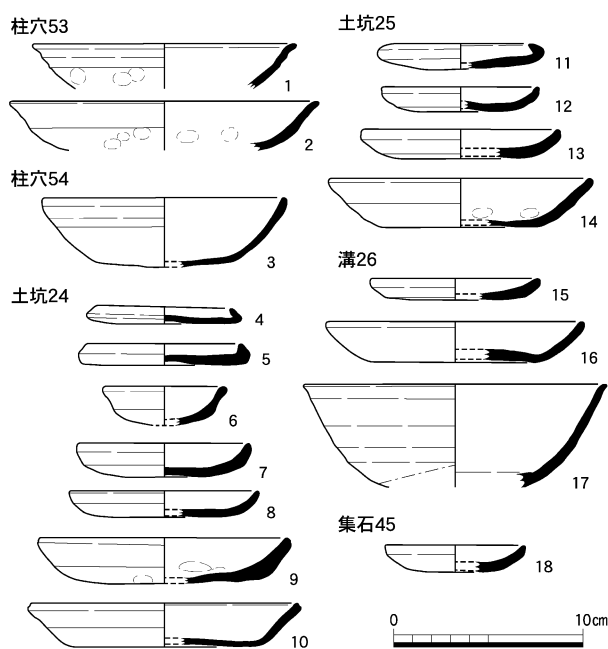


図 13 出土土器実測図 1 (1:4)

2) 室町時代の土器類 (図 14、図版 4)

土坑 20 出土土器 (19~47) (図 14、図版 4) 19~38 は土師器の皿である。19 は丸味をおびた底部から、口縁が短く上方にのびる小型の皿である。20・21 は、底部が内側に突出し、体部・口縁部がゆるやかに外反するいわゆる「へそ皿」である。口縁部・内面はヨコナデ、体部・底部はナデ調整を施す。22~34 は平らな底から外反しながら立ち上がる体部・口縁部からなる皿である。口縁部・体部内面はナデ調整を施す。体部下半に指オサエ痕が残る。大・小の 2 種類がある。35~38 は、体部が明

瞭に屈曲し口縁部は外反する。内面は体部・口縁部はヨコナデ、体部に指オサエを施す。底部は無調整である。大・中・小の3種類がある。

39・40は土師質土器である。39は小型の鉢で、ロクロによる成形で底部にヘラ切り痕が残る。40は脚付き皿の脚部である。裾部の内面はナデ、他は指オサエ痕が密に残る。

41～45は瓦質土器である。41は鍋で、体部はほぼ直線的に外上方にのび、口縁部は外側に開き端部は内側に折り返す。口縁部はヨコナデ、体部内面はナデ調整を施し、体部外面に指オサエを施す。42はミニチュアの三足付きの羽釜で、口縁直下に罫が付く。口縁部はヨコナデ、他はナデ調整を施し、体部内面に指オサエ痕が残る。43は火舎で、体部は内弯し、口縁部は内傾し平坦面をもつ。口縁部外面に突線が2条巡り、中に斜格子文を刻印する。内面はヨコナデ、外面はケズリののちミガキ調整を施す。44は壺で、口縁部は短く立ち上がり端部は丸味をおびる。口縁部はヨコナデののち内面のみハケメ調整を施す。体部内面はナデ調整、外面は指オサエを施す。45は羽釜で、体部・口縁部は若干内傾するが直線的に上方にのび端部は面をなす。口縁部外面に罫が付く。口縁部はヨコナデ、体部内面はハケメ調整、外面は指オサエを施す。

46・47は瀬戸の施釉陶器である。46は皿で、体部・口縁部が内弯気味に外上方にのびる。体

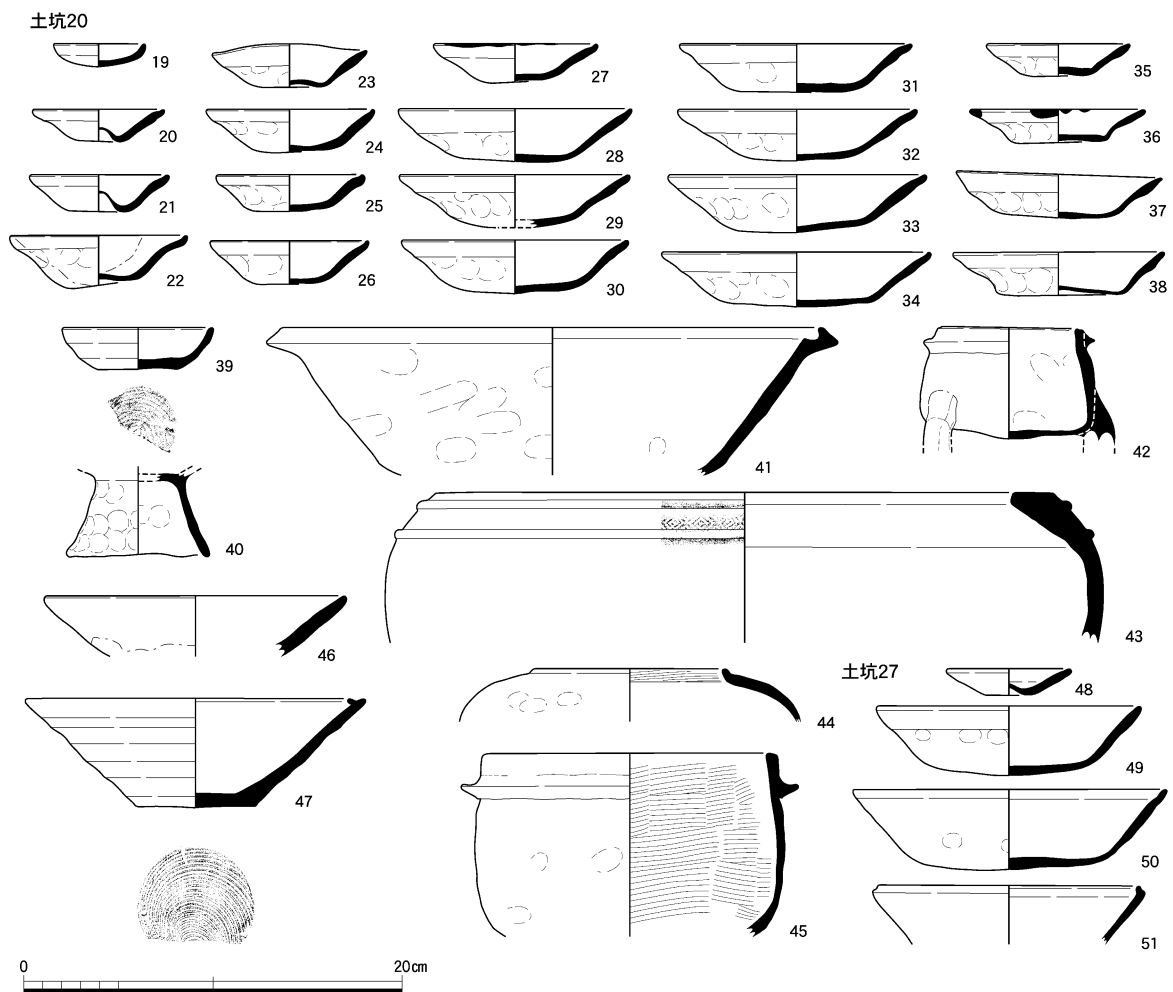


図14 出土土器実測図2 (1:4)

部下半をのぞいて緑灰色の釉が施される。ロクロ成形である。47は鉢で、体部・口縁部が直線的に外上方にのび、口縁端部は内側に突出し受け口状になる。内面に灰白色の釉が施される。ロクロ成形で、底部に糸切り痕が残る。

土坑27出土土器(48～51)(図14、図版4) 48～50は土師器の皿である。48は底部が内側に突出する「へそ皿」である。49・50は平らな底から外反しながら立ち上がる体部・口縁部からなる皿である。口縁部・体部内面はナデ調整を施す。体部下半に指オサエ痕が残る。

51は瓦質土器の鉢で、体部は直線的に開き、口縁端部は内側に立ち上がる。

3) 江戸時代初期の土器類(図15～17、図版5・6)

土坑7出土土器(52～66)(図15、図版5・6) 52～54は土師器の皿である。52は小型の手捏ねの皿である。53・54は丸底気味の底部から口縁部が外上方にのびる。口縁部上半・内面はヨコナデ、口縁部下半は指オサエを施す。

55～61は施釉陶器である。55は志野の小椀で、全面に灰白色の長石釉が施される。高台外に3箇所が目跡が残る。56は瀬戸美濃の折縁ソギ皿で、体部が外上方にのび、口縁部が真横に開き、口縁端部は折り返して玉縁としている。体部内面にソギを入れる。底部内外面に輪トチンの跡が残る。緑灰色の釉が施される。57～61は唐津の皿である。高台部と体部下半を除いて、57は緑色、58・59は淡緑灰色、60は褐色の釉が施される。61は輪花皿で、高台部と体部下半を除いて灰白色の釉、口縁端部は黒色の鉄釉が施される。

62は軟質施釉陶器(初期京焼)の鉢(灰器)である。丸味をおびた底部から若干内傾気味に直線的に上方へのびる体部・口縁部からなる。口縁部下半に偏平な突帯がめぐる。体部下半にタタキ調整を施す。全体に暗褐色の釉が施されるが、部分的に緑色・暗赤褐色を呈する箇所もある。

63・64は輸入白磁の皿である。底部から外反して外上方にのび、口縁端部は外側に折れ曲がる。63は内底面が蛇の目釉剥ぎで、高台内面は露胎である。64は高台端面に重ね焼の痕跡が残る。

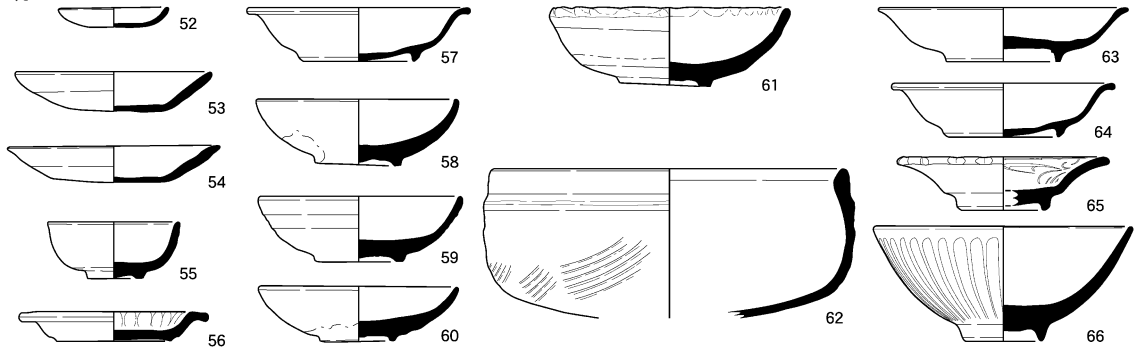
65・66は輸入青磁である。65は輪花の皿で、内面に花文を刻印する。高台内の一部が露胎である。66は椀で、外面に蓮弁を刻印する。63～66は15世紀代の遺物で、伝世品と考えられる。

土坑9出土土器(67～80)(図15、図版5・6) 67～69は土師器の皿である。67は小型の手捏ねの皿である。68・69は丸底気味の底部から口縁部が外上方にのびる。口縁部上半・内面はヨコナデ、口縁部下半は指オサエを施す。68の口縁端部にはススが付着する。

70～72は土師質土器である。70・71は焼塩壺で、体部は直立し、口縁部はすぼまる。口縁部はヨコナデ、体部はナデ調整を施す。71の内面には布目痕が残るが、70の内面はナデられており、布目痕はみられない。72は羽釜で、体部は偏平な球形で、体部の下位に短い鏝が貼り付けられている。口縁部は外方に折れ曲がり、端部は内側に肥厚する。ナデによる調整を施し、内面の一部に指オサエがみられる。外面にススが付着している

75～79は施釉陶器である。75は唐津の小椀で、褐色の鉄釉が施されている。76は唐津の皿で、

土坑 7



土坑 9

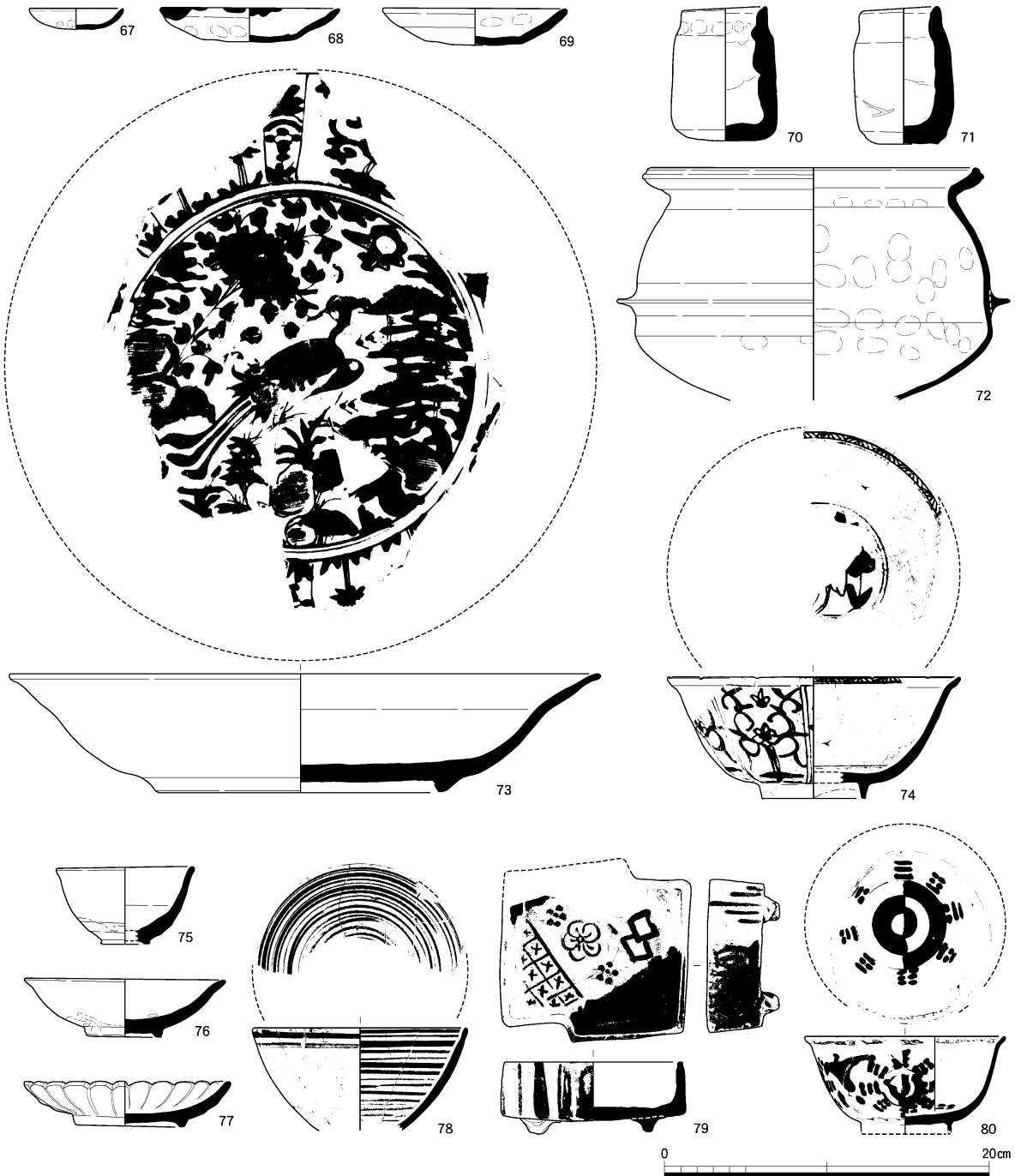


图 15 出土土器实测图 3 (1 : 4)

内底面・高台部に4箇所が目跡がみられる。緑灰色の釉が施されている。77は志野の菊皿で、全面に灰白色の長石釉が施されるが、高台内の一部は露胎である。78は志野織部の椀で、長石釉を施したのちに、内面に鉄釉で同心円、口縁部外面に2条の圈線を描いている。79は織部の向付で、型打ちして作られ内面に布目痕が残る。底部はヘラケズリ調整を施す。二方向に銅緑釉が浸け掛けられ、その間に鉄釉で文様が描かれる。

73・74・80は輸入青花磁器である。73は漳州窯系の芙蓉手の青花皿で、体部の腰が折れ口縁がひろがる。内底面の中央には孔雀を配し、周囲に草花を描いている。高台やその周辺に粗い砂が付着している。74は漳州窯系の青花椀で、口縁端部は外方に開く。外面と内底面に草花を描く。内外面ともに貫入が入る。80は景德鎮窯系の青花椀で、口縁端部は外方に開く。内底面に陰陽文の周りに八卦文を描き、体部外面に陰陽文の周りに八卦文を描いたものと鳥の絵を交互に描いている。

土坑10出土土器(81～87)(図16、図版5・6) 81は土師器の皿である。丸底気味の底部から口縁部が外上方にのびる。口縁部上半・内面はヨコナデ、口縁部下半は指オサエを施す。口縁端部にはススが付着する。色調はにぶい橙色で、胎土・焼成ともに良好である。

82～84は施釉陶器である。82は唐津の皿で、緑灰色の釉が高台を除いて施されている。すべてロクロ成形である。83は志野の皿で、全面に灰白色の長石釉が施されている。内底面・底部ともに3箇所が目跡が残る。84は瀬戸美濃の折縁の皿で、灰白色の釉が内底面の一部を除いて施されている。高台内に輪トチンの跡がある。

85・86は瓦質土器である。85は火消し壺の蓋である。平坦な天井部から口縁部が短く下方にのび、口縁端部は丸味をおびる。口縁部・内面はヨコナデ、天井部内面は仕上げナデを施す。天井部は無調整である。86は鉢で、体部・口縁部は外上方にのび、口縁端部は丸味をおびる。口縁部上半と内面はヨコナデ調整を施す。内面はミガキを加える。体部下半は指オサエ、底部は無調整である。

87は焼締陶器の信楽の水指で、一重口の寸胴形で、横断面は楕円形である。平坦な底部から体部が内弯して上方にのび、口縁部との境に浅い段があり、口縁部は若干外側に開く。粘土紐巻上げ成形で、回転を利用したナデ調整を施す。

土坑11出土土器(88～96)(図16、図版6) 88は土師器の皿である。丸底気味の底部から口縁部が外上方にのびる。口縁部上半・内面はヨコナデ、口縁部下半は指オサエを施す。

89～91は土師質土器である。89は小型の壺である。手捏ね成形で、色調は白色、胎土・焼成ともに良好である。90は羽釜である。体部は扁平な球形で、体部の下位に短い鰐が貼り付けられている。口縁部は外方に折れ曲がり、端部は内側に肥厚する。ナデによる調整を施し、内面の一部にハケメがみられる。外面にススが付着している。91は鍋である。体部・底部は半球形で、口縁部は外方へ開き端部は内傾する。体部下半はケズリののちナデ、体部上半・口縁部はヨコナデ、内面体部内面はハケメを施す。

92～96は施釉陶器である。92は唐津の口縁部が外側に開く皿で、緑灰色の釉が施されてい

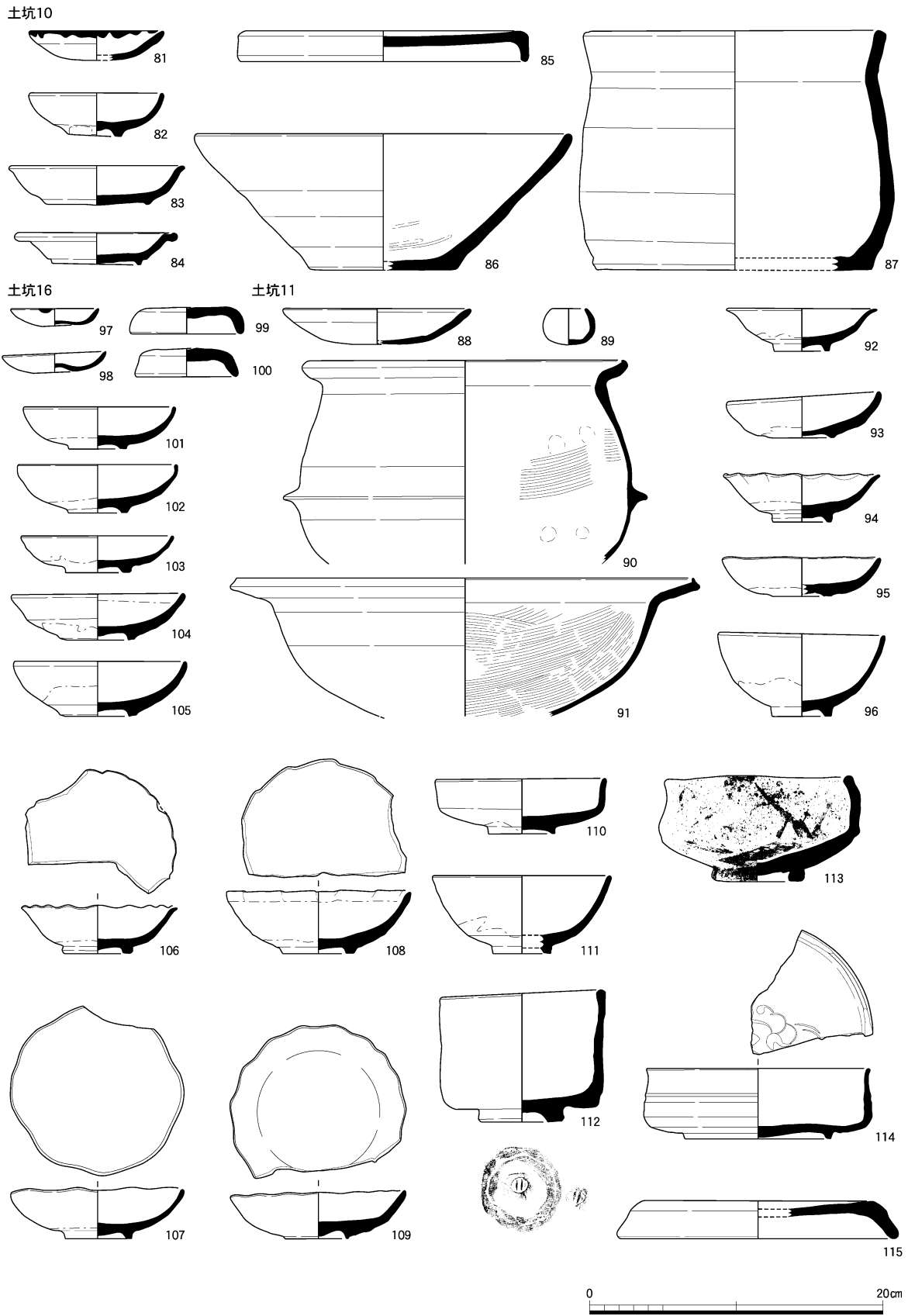


图 16 出土土器实测图 4 (1 : 4)

る。93は唐津の偏平で低い高台がつく皿で、濃緑灰色の釉が施されている。94は唐津の輪花皿で、淡緑灰色の釉が施されている。95は高取の藁灰釉皿の輪花皿で、偏平で低い高台がつく。灰白色の釉が施されている。96は唐津の椀で、内底面に目跡が残る。濃緑色の釉が施され、内面に赤漆が付着している。

土坑16出土土器(97～115)(図16、図版5・6) 97・98は小型の手捏ねの皿である、98は底部が内側に突出し、内面に漆が付着する。

99・100は焼塩壺の蓋である。天井部は平坦で、口縁部はやや外反する。口縁部はヨコナデ、天井部はオサエののちナデ、天井部内面はナデ調整を施す。

101～114は施釉陶器である。101～105は唐津の皿で、底部とその周辺を除いて灰白色の釉を施す 104は口縁部に鉄釉が施される。103～105の内底面には目跡が3箇所残る。106～109は唐津の輪花皿で、底部とその周辺を除いて灰白色の釉を施す 108・109は口縁部に鉄釉が施される。107の内底面には目跡が3箇所残る。108の内面には漆が付着している。110は唐津の鉢で、高台内を除いて灰色の釉が施される。111は唐津の椀で、底部とその周辺を除いて灰白色の釉を施す。内面に漆が付着している。112は伊賀の筒椀で、底部とその周辺を除いて灰白色の釉を施す。高台内と底部の2箇所に刻印が捺される。113は半筒形の志野の椀である。底部に不定形な高台を貼り付けている。高台脇を三角形に残し、灰白色の長石釉を施している。体部に鉄釉で絵を描くが、不鮮明である。114は黄瀬戸の鉢で、内底面に草花文を彫り、胆礬を施す。

115は瓦質土器の火消し壺の蓋である。平坦な天井部から口縁部が短く外下方にのび、口縁端部は丸味をおびる。口縁部・内面はヨコナデ、天井部内面は仕上げナデを施す。天井部は無調整である。

土坑18出土土器(116～124)(図17、図版5・6) 116は土師器の小型の手捏ねの皿である。

117は焼塩壺の蓋である。天井部は平坦で、口縁部はやや外反する。口縁部はヨコナデ、天井部はオサエののちナデ、天井部内面はナデ調整を施す。

118～123は施釉陶器である。118は志野織部の燈明具の蓋である。天井部内面にかえりが付き、口縁端部とかえりの間が露胎であるのを除いて、灰白色の長石釉が施される。119は志野の合子の身である。灰白色の長石釉が浸け掛けされるが、内面の一部は露胎である。高台周辺に3箇所目跡が残る。120は唐津の鉢である。腰部で立ち上がった外方に開き、口縁部を内側に折り返した隅丸方形の鉢である。底部とその周辺を除いて灰白色の釉を施し、内底面に鉄釉で花(沢瀉)文、口縁部外面に草文を描く。121は唐津の椀で、底部と体部下半を除いて茶灰色の釉を施す。口縁部の欠損部に漆が付着していることから、漆の梳き皿として使用するため故意に口縁部を欠いた可能性が考えられる。122は高取の椀で、底部とその周辺を除いて灰白色の釉を施す。高台に3箇所目跡が残る。内外面に漆が付着している。123は志野織部の皿である。全面に灰白色の長石釉が施され、内面を鉄釉で三重に圏線を描き、上から一重と二重の間と三重めの圏線の間草花文を鉄釉で描いている。高台内に3箇所目跡が残る。内外面に漆が付着し、漆の梳き皿として使用されたものと思われる。

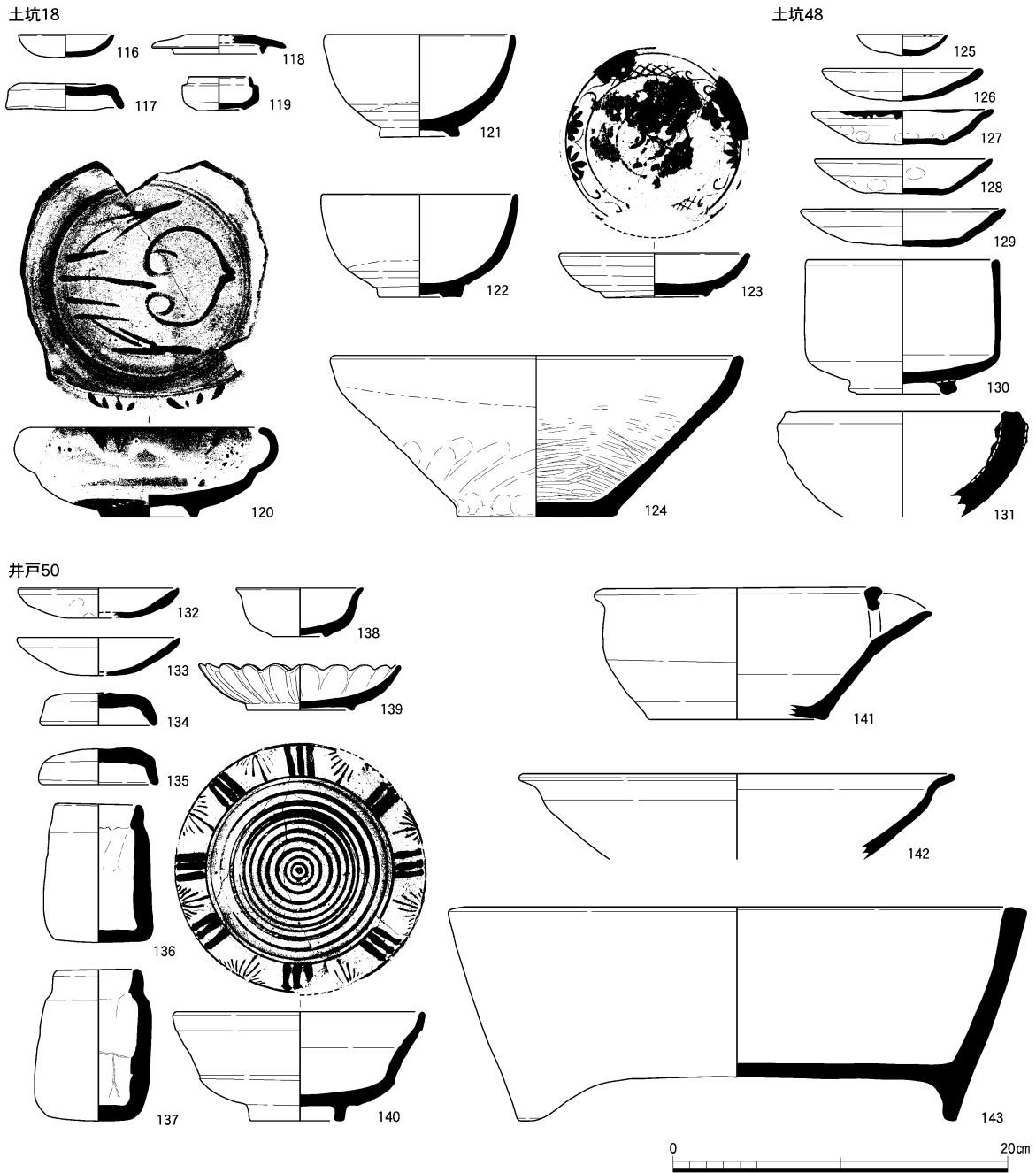


図17 出土土器実測図5 (1:4)

124 は瓦質土器の鉢で、体部・口縁部は外上方にのび、口縁端部は丸味をおびる。口縁部上半と内面はヨコナデ調整を施す。内面はミガキを加える。体部下半は指オサエ、底部は無調整である。

土坑48出土土器(125～131)(図17、図版5) 125～129は土師器の皿である。125は小型の手捏ねの皿である。126～129は丸底気味の底部から口縁部が外上方にのびる。口縁部上半・内面はヨコナデ、口縁部下半は指オサエを施す。

130は軟質施釉陶器(初期京焼)の筒椀で、内面に褐色、外面に緑灰色の釉が施される。高台は貼付けで、外面にハケメが残る。

131は半球状のルツボで、スサ入りの粘土を用いて成形され、内面に銅の溶解物が付着している。

井戸 50 出土土器（132～143）（図 17、図版 5・6） 132・133 は土師器の皿である。丸底気味の底部から口縁部が外上方にのびる。口縁部上半・内面はヨコナデ、口縁部下半は指オサエを施す。

134～137 は土師質土器である。134・135 は焼塩壺の蓋である。天井部はふくらみ、口縁部はやや外反する。口縁部はヨコナデ、天井部はオサエののちナデ調整を施し、内面に布目痕が残る。136・137 は焼塩壺である。体部は直立し、口縁部はすぼまる。口縁部はヨコナデ、体部はナデ調整を施す。

138～142 は施釉陶器である。138 は織部の小椀で、底部はいわゆる碁笥底になっている。全体に淡緑灰色の釉がかかり、その上に斑状に緑青色の釉が施されている。139 は志野の菊皿で、全面に灰白色の長石釉が施されるが、高台内に目跡が 3 箇所残る。140 は志野織部の鉢で、体部は直線的の外上方に開き、内外面中位と口縁部下位に段がある。全面に灰白色の長石釉が施され、内底面・体部下半に鉄釉で同心円、上半も鉄釉で文様が描かれている。141 は高取の鉢で、片口が付く。口縁端部の除いて全体に緑灰色の釉が施される。底部に円形の貝目が認められる。142 は唐津の鉢で、口縁部は上外方に開き端部は丸味をおびる。灰白色の釉が体部上半から内面にかけて施されている。

143 は瓦質土器の火舎である。長方形の箱形の本体の四隅に足が付く。体部・口縁部は直線的に外上方にのび、口縁端部は平坦になる。底部は木目痕が残り、離れ砂が付着している。他はナデによる調整を施す。

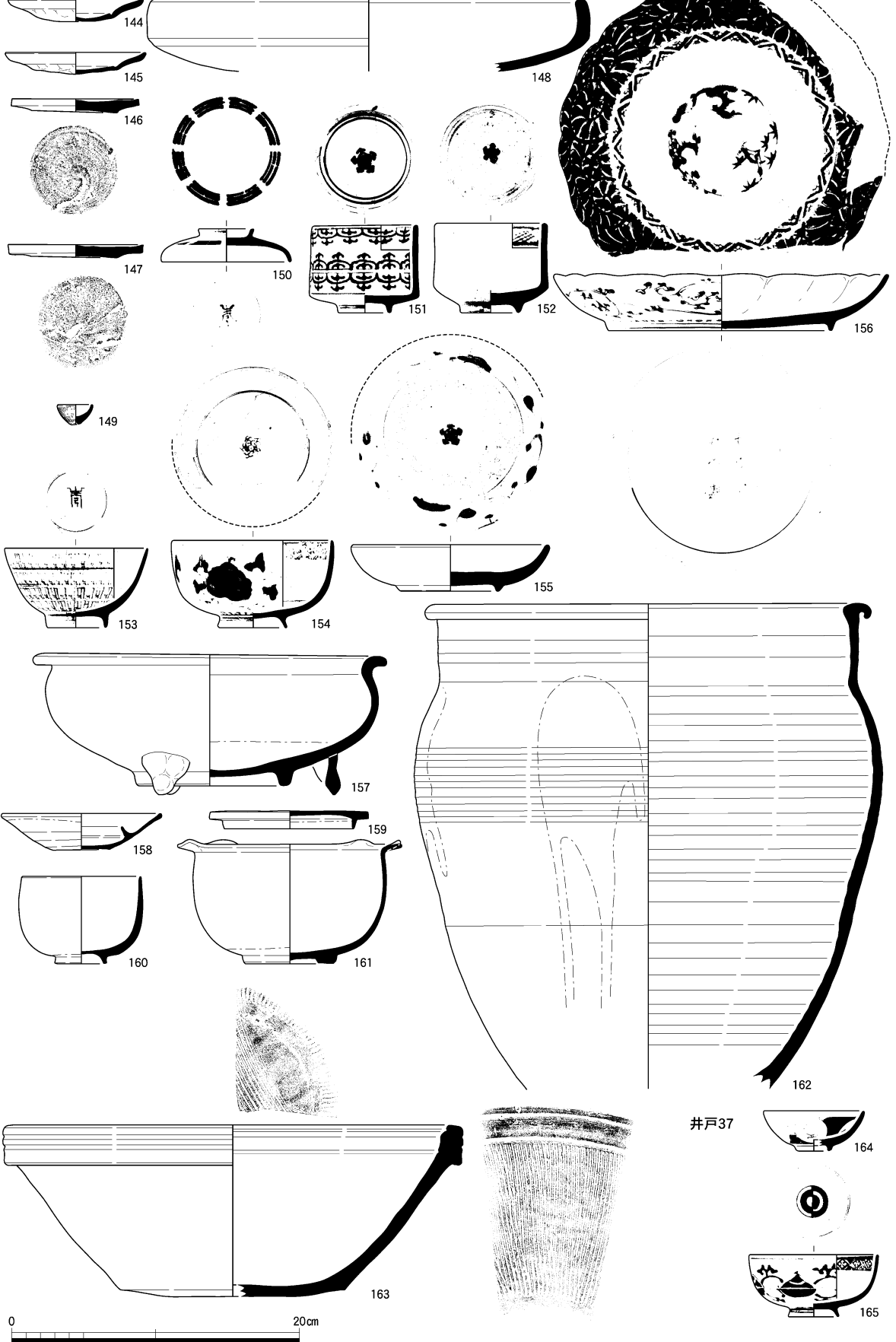
4) 江戸時代後期の土器類（図 18）

土坑 13 出土土器（144～163）（図 18） 144・145 は土師器の皿である。丸底気味の底部から口縁部が外上方にのびる皿である。口縁部と内底面の境に圏線がめぐる。口縁部・内面はヨコナデ、口縁部下半は指オサエ、内底面は仕上げナデを施す。

146～148 は土師質土器である。146・147 は鉢形の焼塩壺の蓋で、内面中央が若干厚くなる。天井部・口縁部はヨコナデ調整、内面はヘラ切りのまま無調整である。148 は焙烙で、円盤状の底部に直立する口縁部を貼り付けたもので、外型成形である。口縁部・内面はヨコナデ調整、底部は無調整である。内面にススが付着する。

149～157 肥前磁器である。149 はミニチュアの白磁椀である。150 は染付の蓋である。天井部に八卦文、内面中央に二重圏線のなかに崩された「寿」が描かれる。151 は染付の筒椀で、口縁部・体部外面に輪宝文、内底面には二重圏線とコンニャク印五弁花が描かれる。152 は青磁染付の筒椀である。外面に青磁の釉が施され、内面の口縁部に四方禪文、内底面には二重圏線とコンニャク印五弁花が描かれる。153 は染付の椀で、外面に梵字文、内底面に二重圏線の中に崩された「寿」が描かれる。154 は染付の椀である。内面の口縁部に四方禪文、内底面には二重圏線と五弁花が描かれる。155 は内底面に蛇の目釉剥ぎの粗製の皿である。内面に草花文繫、内底面にコンニャク印五弁花がしるされる。156 は大型の輪花皿である。内面に唐草文に松竹梅繫、外面に唐草文

土城13



井戸37

图 18 出土土器实测图6 (1:4)

を描く。高台内に「大明成化年製」と記され、目跡が4箇所残る。157は青磁の鉢で、内底面と高台の端面を除いて青磁の釉が施される。体部下半に三足を貼付する。

158～162は京・信楽系の施釉陶器である。161は鉢で、口縁部は水平に外方に折れ曲がり、輪花が施される、口縁上面にサビ絵が描かれる。内底面に3箇所目跡が残る。162は鉄釉に黒釉流しの信楽の甕である。158は灯明受け皿、159は蓋、160は椀である。

163は堺・明石系の焼締陶器の播鉢である。

土坑37出土土器(164・165)(図18) 164は色絵の小椀である。内底面に砂粒が付着する。外面に赤絵の地に円窓を開け、その中に文字と花文を交互に配する。文字は「小町紅」と記される。

165は肥前磁器の染付の「ハ」の字状高台をもつ小椀である。外面は宝珠に輪宝繫、内面の口縁部に四方禪文、内底面には二重圏線と陰陽文を描く。

(3) 瓦類(図19、図版7、付表2)

軒丸瓦(166) 複弁八葉蓮華文をもつ小型の軒丸瓦である。かなり磨耗した範を用いたと思われ、瓦当面は不鮮明である。土坑7から出土している。

軒平瓦(167～170) 167は斜格子の中に菱形を配する。外区に珠文が粗く巡る。瓦当部成形は半折り曲げで、顎部の裏面に粘土を足して曲線顎とする。土坑23から出土している。

168は剣頭文の軒平瓦である。瓦当は折り曲げ成形である。溝26から出土している。

169は宝珠唐草文の軒平瓦である。顎貼付け式の段顎である。土坑17から出土している。

170は中心飾りに三巴文を配し、左側に「妙法」と記される。右側はおそらく「南無」だと思われる。顎貼付け式の段顎である。土坑11から出土している。

(4) その他遺物(図20～23、図版7・8、付表3～5)

1) 木製品(図20、図版7、付表3)

下駄(171) 台の中程に二対の貫通するホゾ穴をあけて、二本の歯を差し込んだ露卯下駄である。差歯は下端が広がる「ハ」字形である。前緒穴は台のほぼ中央にあり、後歯の前に後緒穴がある。土坑20から出土している。

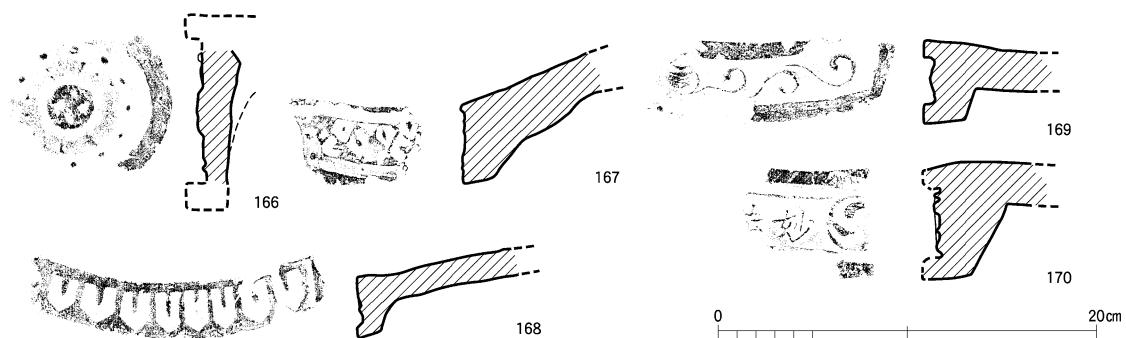


図19 軒瓦拓影・実測図(1:4)

木球（172）円筒形の上下辺の端部を削って丸身を持たせている。毬打に使用されたものであろう。土坑 20 から出土している。

篋（173・174） 173 は薄い板を細長長刀形に成形したものである。漆を練ったり塗ったりするために用いられ、端面に漆が付着する。174 は片方を三角形に尖らせているが、他面は欠損している。173 は土坑 7 から、174 は土坑 20 から出土している。

建築部材(175) 上端を丸く削りその下で両側を斜めに切り欠いている。下部は断面矩形となり、方形の孔を穿っている。木と木を繋ぐのに用いられた留具と考えられる。土坑 7 から出土している。

箸(176～182) いずれも割木を粗く削って成形し、両端は削っている。179・182 は土坑 7 から、176～178・180・181 は土坑 20 から出土している。

2) 金属製品 (図 21、図版 8、付表 4)

銅製釘 (183～189) 鍛造製の銅製の釘である。頭の成形は叩き延ばして一方に折り曲げて作られている。完全に折り曲げたもののほかに、半折したものや先端部のみのもがある。胴部の

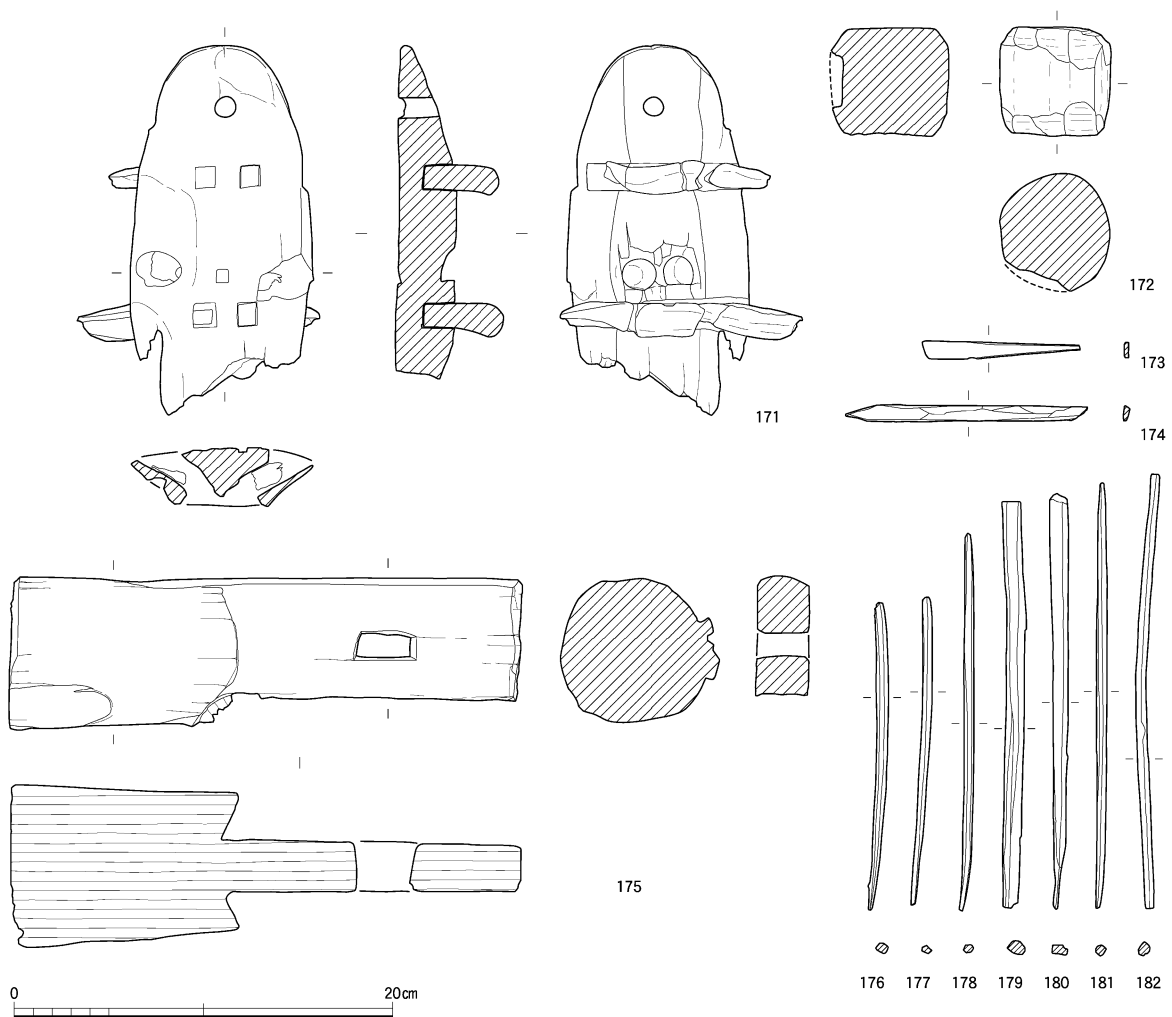


図 20 木製品実測図 (1 : 4)

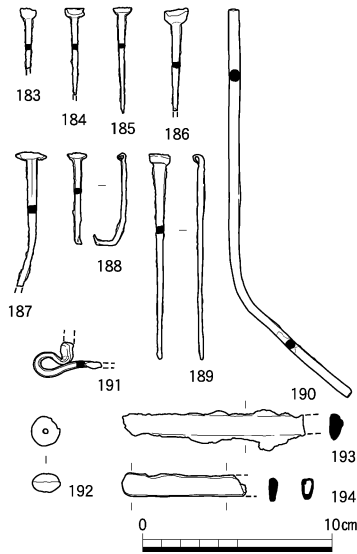


図 21 金属製品実測図 (1 : 4)

断面は矩形である。土坑 7 から出土している。

火箸 (190) 全長 22.5 cm の真鍮製の棒状金具で、火箸になると思われる。上部約 9.5 cm までは断面六角形、下半は円形である。上端意匠が付属していたと思われるが、欠損している。土坑 10 から出土している。

金具 (191) 断面が一辺約 2.5 mm の方形の銅製の針金を円形に折り曲げて、端部を直立させている。端部は肥大している。土坑 9 から出土している。

数珠 (192) 偏平な球形をした中空の銅製の珠で、中央に紐を通すための孔が開けてある。薄板を椀形に成形したものを 2 つ合わせて作られている。土坑 15 から出土している。

小柄 (193・194) 193 は小柄の刀身で、断面は三角形である。黒漆を塗った鞘が残存している部分がある。194 は銅製の柄である。中央に円内に文様が施されているが、錆のため詳細は不明。鍛造製である。井戸 50 から出土している。

銀製品 (195) 銀の比重より軽いため、他の金属との合金だと思われる。表面は黒味をおびる。片面に槌目が残る、他面は鋳出したままである。用途は不明であるが、秤量貨幣として使用された可能性もある。土坑 20 から出土している。

3) 石製品 (図 22、図版 7、付表 5)

基石 (196 ~ 198) 不整円形で偏平な黒色の基石である。硬質の粘板岩製である。すべて土坑 11 から出土している。

4) 土製品 (図 22、図版 8、付表 5)

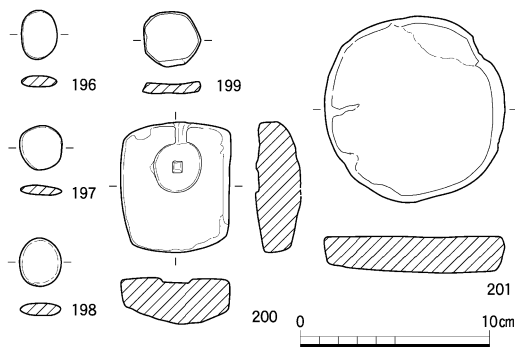


図 22 石製品・土製品実測図 (1 : 4)

土製円盤 (199) 199 は土師器の皿の体部を打ち欠いて円形に成形したものである。遊具として使用した可能性が考えられる。土坑 16 から出土している。

鑄型 (200) 鑄型と思われる土製品である。手捏ね成形で、片面は平滑に仕上げ、他面は無調整で膨らんでいる。平滑面に湯道と思われる溝を設け、その下に径 2.4 cm の円形の中央に一边 4.5 mm の方孔をもつ鑄型が作られている。銭

状のものを鑄造しようとしたと思われるが、熱による変化を受けておらず、未使用だと考えられる。

瓦製円盤（201）平瓦を打ち欠いて円形に成形し、仕上げに周縁を研磨している。用途は不明である。胎土中に2mm以下の砂粒を含み、焼成は良好である。色調は灰白色である。土坑19から出土している。

5) 漆器製造関係遺物（図23）

漆器を製造する過程で使用されたと考えられる遺物として、紙製蓋・漉し布・漉し紙がある。紙製蓋（202・203）は、漆を貯蔵した容器の蓋をした紙で、漆を吸収して固まっている。変形しているが、もとは円形をしていたと思われる。内面には漆がつらら状に垂れ下がっている。漉し布（204・205）は、漆の中に含まれるゴミを取り除くために用いられた布で、布に漆を包んで振じ絞ったままの状態出土している。漉し紙（206）は、漆を精製するため用いられた紙で、紙捻状になっている。土坑16から出土している。

他に、漆を練ったり塗ったりするために用いられた篋（173・174）、パレットとして使用された唐津椀（96）や志野織部皿（123）などが出土している。

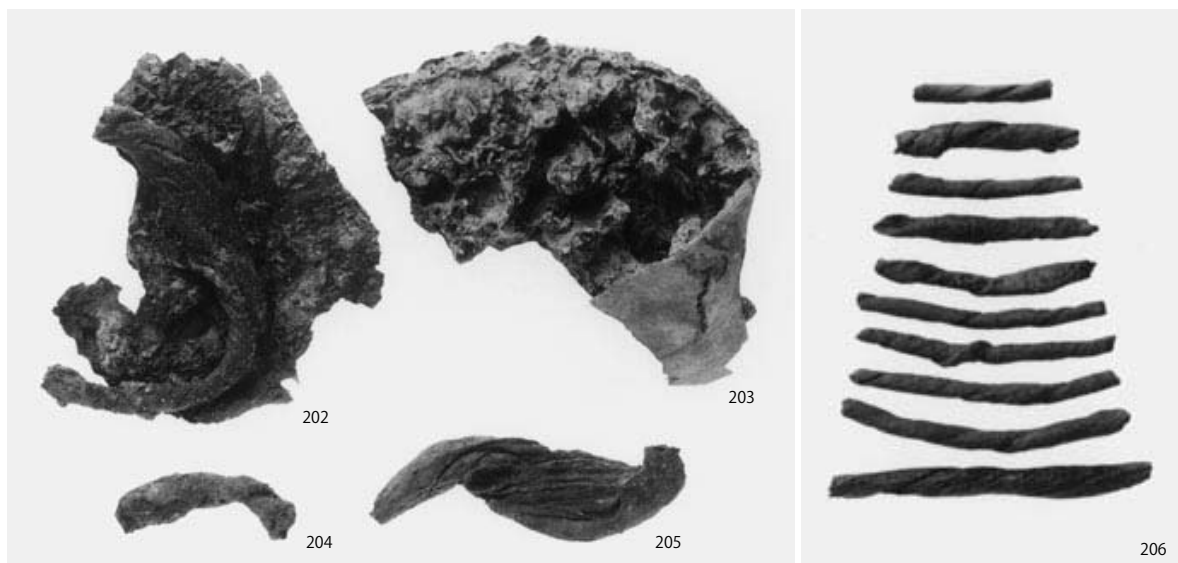


図23 漆器製造関連遺物（紙製蓋・漉し布・漉し紙）

5. ま と め

今回の調査によって、平安時代後期から鎌倉時代、室町時代後期、江戸時代初期、江戸時代後期の各時代の遺構を検出した。以下、時代毎に概要を述べる。

平安時代後期から鎌倉時代の遺構として、溝 26、石敷き 30、土坑 22～25・56、集石 45、柱穴 53・54・57 がある。溝 26 は底部の両肩に河原石を据えた溝で、押小路殿に付属する建物に伴う雨落ち溝と考えられる。溝 26 の周辺には砂礫を混ぜて搗き固めた整地層（石敷き 30）が巡らされている。柱穴 53・54・57 は土師器の小片を含む整地層を切り込んで作られている。

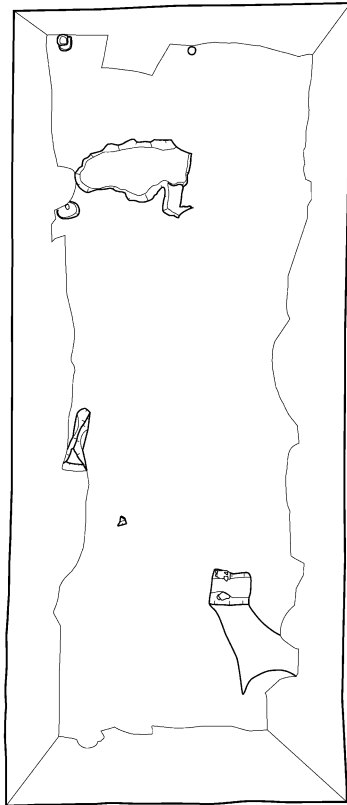
室町時代後期の遺構として土坑 20・27 がある。土坑 20 は木柵などの施設を検出しなかったが、湧水層である地山の砂礫層まで掘り込まれているので、井戸の掘形部分を検出した可能性が高く、二条殿に付属した井戸であろう。

江戸時代初期の遺構として、土坑 7・9～11・16～19・28・40・48、井戸 50 がある。土坑の大半は地山の黄褐色シルトを採取するためのいわゆる土取穴で、調査区の中央部に集中している。遺構の埋土から、江戸時代初期の施釉陶器の唐津・黄瀬戸・織部・志野、軟質施釉陶器の初期京焼、焼締陶器の備前、輸入青花磁器が比較的まとまって出土している。また、漆を塗る作業の工程で用いられたと考えられる容器の蓋に用いられた紙、漆を絞って濾過するのに用いた漆漉し布・紙、漆を混ぜたり溶いたりするのにパレットとして用いた容器（施釉陶器の椀・皿を転用）と木製の篋などが出土しており、調査地の周辺で漆塗りの職人の工房があった可能性がきわめて高い。

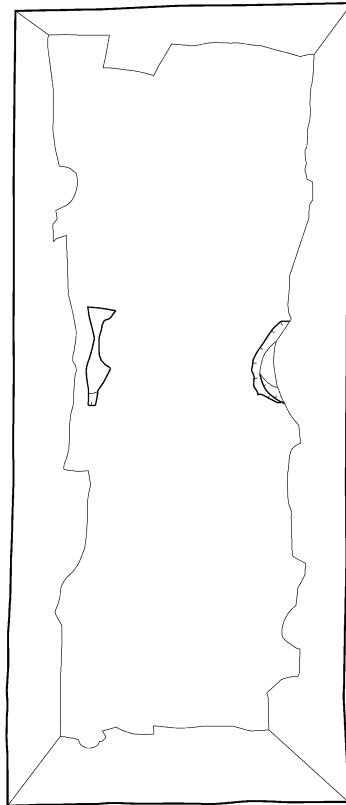
江戸時代後期の遺構の大半は、塵芥などの廃棄土坑と考えられる不定形な土坑群である。他に井戸 1・44、井戸であったと思われる土坑 33・37・38、土蔵の基礎である溝 32 などがある。

東側の両替町通の近い場所（調査区東端から 4.5m、両替町通の東端から 10.5m）では江戸時代前期から中期の整地層が残存しており、この部分に建物が建っていたと思われる。また、建物の奥側に井戸・土蔵が造られ、奥庭にあたる箇所に塵芥廃棄用の土坑が営まれていたことがわかる。

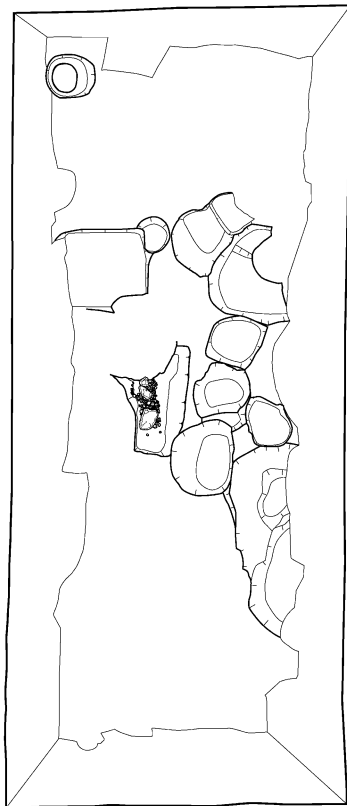
以上、今回の調査によって、平安時代から室町時代にいたるまで貴族の邸宅（押小路殿・二条殿）が営まれてきた痕跡を確認した。織田信長の二条殿御池城が廃絶した後は一時空閑地となり土が採取された痕跡を残す。江戸時代になってから両替町通に面した町家が形成されたという当地の歴史的変遷を明らかにすることができた。



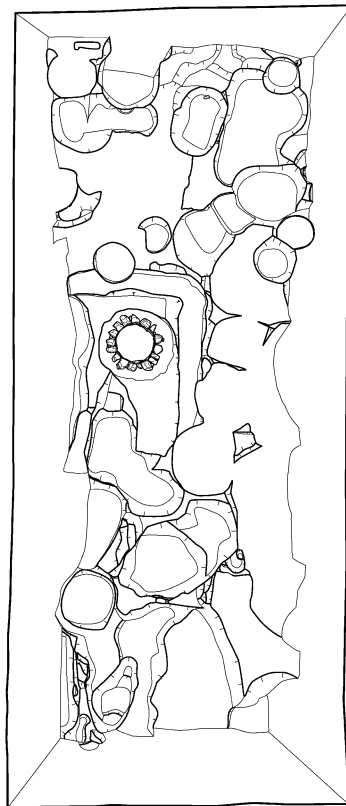
1 平安時代後期～鎌倉時代



2 室町時代



3 江戸時代初期



4 江戸時代後期

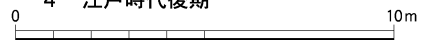


図24 遺構変遷概要図 (1:200)

付表1 掲載土器類一覧表

出土遺構	遺物No.	器種	器形	口径(cm)	器高(cm)	色調	胎土	
柱穴53	1	土師器	皿	13.4	—	10YR 8/3 浅黄橙	1mm以下の長石、金雲母、チャート	
	2	土師器	皿	16.0	2.6	7.5YR 8/3 浅黄橙	3mm以下の砂粒、長石、金雲母、赤色粒	
柱穴54	3	土師器	皿	12.7	3.7	2.5Y 8/2 灰白	1mm以下の長石、金雲母、チャート	
土坑24	4	土師器	皿	7.1	1.0	2.5Y 8/1 灰白	1mm以下の長石、チャート	
	5	土師器	皿	8.1	1.2	7.5YR 8/3 浅黄橙	1mm以下の長石、金雲母、チャート	
	6	土師器	皿	6.2	2.1	7.5YR 7/4 にぶい橙	1mm以下の長石、金雲母、赤色粒	
	7	土師器	皿	8.9	1.8	10YR 7/3 にぶい黄橙	4mm以下の長石、金雲母、砂粒、赤色粒	
	8	土師器	皿	9.8	1.4	2.5Y 8/1 灰白	1mm以下の長石	
	9	土師器	皿	13.0	2.4	10YR 8/3 浅黄橙	1mm以下の長石、金雲母、チャート	
	10	土師器	皿	14.0	2.3	5Y 7/6 橙	1mm以下の長石、金雲母、チャート	
	土坑25	11	土師器	皿	7.2	1.4	10YR 8/3 浅黄橙	1mm以下の長石、金雲母、チャート、赤色粒
		12	土師器	皿	8.0	1.3	10YR 7/3 にぶい黄橙	2mm以下の長石、金雲母、チャート、赤色粒
		13	土師器	皿	10.2	1.6	10YR 7/3 にぶい黄橙	2mm以下の長石、金雲母、チャート、赤色粒
14		土師器	皿	13.5	2.6	10YR 8/3 浅黄橙	1mm以下の長石、金雲母、チャート、赤色粒	
溝26	15	土師器	皿	8.5	1.1	7.5YR 7/3 にぶい橙	1mm以下の長石、金雲母、チャート、赤色粒	
	16	土師器	皿	13.2	2.2	10YR 8/3 浅黄橙	2mm以下の長石、金雲母	
	17	輸入白磁	椀	15.5	—	2.5Y 8/1 灰白	密	
集石45	18	土師器	皿	7.2	1.4	2.5Y 8/1 灰白	1mm以下の長石、金雲母、チャート	
土坑20	19	土師器	皿	4.7	1.2	10YR 7/3 にぶい黄橙	密、1mm以下の長石、石英	
	20	土師器	皿	6.8	1.7	10YR 8/2 灰白	密、1mm以下の長石、石英	
	21	土師器	皿	7.2	2	10YR 8/2 灰白	密、2mm以下の長石、石英	
	22	土師器	皿	9.2	2.8	10YR 8/2 灰白	密、1mm以下の長石、石英、黒色粒子	
	23	土師器	皿	8.1	1.9	10YR 8/2 灰白	密、1mm以下の長石、石英	
	24	土師器	皿	8.7	2.3	7.5YR 8/2 灰白	密、2mm以下の長石、石英、黒色粒子	
	25	土師器	皿	7.6	1.95	2.5Y 8/2 灰白	密、2mm以下の長石、石英	
	26	土師器	皿	8.2	2.3	10YR 8/2 灰白	密、2mm以下の長石、石英、チャート	
	27	土師器	皿	8.5	2.1	2.5Y 8/2 灰白	粗、1mm以下の長石、石英	
	28	土師器	皿	12.1	1.8	2.5Y 8/1 灰白	密、1mm以下の長石、石英	
	29	土師器	皿	12.0	2.8	2.5Y 8/2 灰白	密、1mm以下の長石、石英、黒色粒子	
	30	土師器	皿	11.8	2.35	2.5Y 8/3 淡黄	密、1mm以下の長石、石英	
	31	土師器	皿	12.0	2.6	2.5Y 7/1 灰白	密、1mm以下の長石、石英、黒色粒子	
	32	土師器	皿	12.4	2.7	10YR 8/3 浅黄橙	密、1mm以下の長石、石英、金雲母	
	33	土師器	皿	13.4	3.1	10YR 8/2 灰白	密、1mm以下の長石、石英、黒色粒子	
	34	土師器	皿	14.0	2.9	10YR 8/2 灰白	密、2mm以下の長石、石英	
	35	土師器	皿	7.4	1.7	7.5YR 7/3 にぶい橙	密、3mm以下の長石、石英、赤色粒子	
	36	土師器	皿	9.0	1.7	7.5YR 7/3 にぶい橙	密、1mm以下の長石、石英、チャート	
	37	土師器	皿	10.8	2.3	7.5YR 7/4 にぶい橙	密、2mm以下の長石、石英、チャート、赤色粒子	
	38	土師器	皿	11.0	2.3	10YR 7/2 にぶい橙	密、1mm以下の長石、石英、チャート、黒色粒子	
	39	土師質土器	鉢	7.8	2.2	10YR 7/3 にぶい黄橙	密、1mm以下の長石、金雲母	
	40	土師質土器	脚	7.3	—	7.5YR 7/4 にぶい橙	密、1mm以下の長石、金雲母、赤色粒子	
	41	瓦質土器	鍋	28.6	7.8	10YR 7/1 灰白	密、1mm以下の長石、石英、チャート、赤色粒子	
	42	瓦質土器	ミニチュア羽釜	7.1	6.3	N 4/0 灰	密、1mm以下の長石、石英、雲母	
	43	瓦質土器	火舎	32.6	—	N 6/0 灰	密、1mm以下の雲母、金雲母	
	44	瓦質土器	壺	10.1	—	N 2/0 暗灰	密、1mm以下の長石、石英、金雲母	
	45	瓦質土器	羽釜	15.5	9.7	N 3/0 暗灰	密、1mm以下の長石、石英、雲母	
	46	施釉陶器	皿	15.8	—	2.5Y 8/2 灰白	密、1mm以下の石英、赤色粒子	
	47	施釉陶器	鉢	17.6	5.8	2.5Y 8/2 灰白	密、2mm以下の長石、チャート、黒色粒子	
	土坑27	48	土師器	皿	6.2	1.4	10YR 8/2 灰白	1mm以下の長石、金雲母、チャート
		49	土師器	皿	13.6	3.7	7.5YR 8/3 浅黄橙	1mm以下の長石、金雲母、チャート
		50	土師器	皿	16.3	4.3	10YR 8/2 灰白	1mm以下の長石、金雲母、チャート
51		瓦質土器	鉢	13.6	—	5Y 7/1 灰白	1mm以下の長石、金雲母、チャート	
土坑7	52	土師器	皿	5.65	1.1	10YR 7/3 にぶい黄橙	密、5mm以下の長石、石英、チャート	
	53	土師器	皿	10.2	2.15	7.5YR 7/4 にぶい橙	密、1mm以下の雲母、金雲母、赤色粒子、黒色粒子	
	54	土師器	皿	11.0	2.0	7.5YR 8/4 浅黄橙	密、1mm以下の赤色粒子、黒色粒子	
	55	施釉陶器	椀	6.8	3.0	2.5Y 8/2 灰白	密、1mm以下の黒色粒子	

出土遺構	遺物No.	器種	器形	口径(cm)	器高(cm)	色調	胎土
土坑7	56	施釉陶器	皿	9.7	1.6	2.5Y 7/1 灰白	密、1mm以下の石英
	57	施釉陶器	皿	11.0	3.15	7.5YR 6/1 灰	密、1mm以下の長石
	58	施釉陶器	皿	10.6	3.5	5YR 7/3 にぶい橙	密、1mm以下の長石、黒色粒子
	59	施釉陶器	皿	10.6	3.5	7.5YR 6/2 灰褐	密、2mm以下の長石、黒色粒子
	60	施釉陶器	皿	10.6	2.9	N 4/0 灰	密、2mm以下の長石、チャート、黒色粒子
	61	施釉陶器	皿	12.3	4.2	10YR 7/2 にぶい黄橙	密、1mm以下の長石
	62	軟質施釉陶器	鉢	18.2	7.9	5YR 7/4 にぶい橙	密、1mm以下の長石、赤色粒子
	63	輸入白磁	皿	13.0	2.85	N 7/0 灰白	密、1mm以下の黒色粒子
	64	輸入白磁	皿	11.8	2.85	N 8/0 灰白	密
	65	輸入青磁	皿	10.6	2.8	N 5/0 灰	密、1mm以下の黒色粒子
66	輸入青磁	椀	13.4	6.05	N 8/0 灰白	密、1mm以下の黒色粒子	
土坑9	67	土師器	皿	5.8	1.3	10YR 7.2 にぶい黄橙	3mm以下の長石、金雲母、チャート、砂粒
	68	土師器	皿	11.1	2.1	10YR 8/3 浅黄橙	1mm以下の金雲母、チャート
	69	土師器	皿	11.4	2.3	10YR 8/2 灰白	密、1mm以下の長石、金雲母、チャート
	70	土師質土器	焼塩壺	5.3	8.3	5YR 7/6 橙	粗、3mm以下の砂粒、長石、金雲母、チャート、赤色粒子
	71	土師質土器	焼塩壺	5.0	8.5	7.5YR 7/3 浅黄橙	粗、5mm以下の砂粒、長石、金雲母、チャート
	72	土師質土器	羽釜	21.0	—	7.5YR 8/3 浅黄橙	密、1mm以下の石英、長石、金雲母
	73	輸入青花磁器	皿	36.5	7.3	5GY 8/1 灰白	密
	74	輸入青花磁器	椀	18.0	7.5	2.5Y 8/2 灰白	密
	75	施釉陶器	椀	8.5	4.8	7.5YR 5.3 にぶい褐	密
	76	施釉陶器	皿	12.4	3.7	5YR 3/3 暗赤褐	密
	77	施釉陶器	皿	12.7	2.8	2.5Y 8/2 灰白	密
	78	施釉陶器	椀	13.2	—	2.5Y 8/2 灰白	密
	79	施釉陶器	向付	11.0	4.4	2.5Y 8/2 灰白	密
	80	輸入青花磁器	椀	12.4	—	5GY 8/1 灰白	密
土坑10	81	土師器	皿	9.2	2.0	7.5YR 7/4 にぶい橙	密、1mm以下の長石、雲母、赤色粒子
	82	施釉陶器	皿	9.2	3.0	N 7/0 灰	密、1mm以下の黒色粒子
	83	施釉陶器	皿	12.0	2.7	10YR 8/2 灰白	密、3mm以下の長石、赤色粒子
	84	施釉陶器	皿	11.1	2.2	2.5Y 8/2 灰白	密、1mm以下の雲母
	85	瓦質土器	蓋	19.4	2.1	N 4/0 灰	密、2mm以下の長石、石英、チャート
	86	瓦質土器	鉢	25.7	9.3	N 4/0 灰	密、2mm以下の長石、石英、チャート、赤色粒子
	87	焼締陶器	水指	20.6	16.3	N 7/0 灰	密、3mm以下の長石、石英、チャート、赤色粒子
土坑11	88	土師器	皿	12.6	2.45	10YR 7/4 にぶい黄橙	密、1mm以下の雲母、赤色粒子
	89	土師質土器	壺	2.1	2.5	2.5Y 8/2 灰白	密、1mm以下の雲母、赤色粒子、黒色粒子
	90	土師質土器	羽釜	22.2	—	7.5YR 7/2 明褐灰	密、1mm以下の金雲母、雲母、赤色粒子、黒色粒子
	91	土師質土器	鍋	31.0	—	10YR 7/3 にぶい黄橙	密、1mm以下の雲母、金雲母
	92	施釉陶器	皿	10.2	2.9	N 7/0 灰白	密、1mm以下の長石、石英、黒色粒子
	93	施釉陶器	皿	10.2	3.2	10YR 5/2 灰黄褐	密、1mm以下の長石、雲母
	94	施釉陶器	皿	10.4	3.35	2.5Y 7/1 灰白	密、1mm以下の長石、金雲母、黒色粒子
	95	施釉陶器	皿	10.6	2.7	N 7/0 灰	密、2mm以下の長石、黒色粒子
	96	施釉陶器	椀	11.15	5.75	N 6/0 灰	密、1mm以下の長石、赤色粒子
土坑16	97	土師器	皿	5.9	1.2	10YR 7/2 にぶい黄橙	1mm以下の長石、金雲母、チャート
	98	土師器	皿	7.0	1.5	10YR 7/2 にぶい黄橙	1mm以下の長石、金雲母、チャート
	99	土師質土器	焼塩壺蓋	7.5	1.85	2.5YR 7/4 淡赤棟	2mm以下の長石、チャート
	100	土師質土器	焼塩壺蓋	6.5	2.0	5YR 7/4 にぶい橙	2mm以下の長石、チャート
	101	施釉陶器	皿	10.2	2.85	10YR 6/2 灰黄褐	密
	102	施釉陶器	皿	10.7	3.3	10YR 6/1 褐灰	密
	103	施釉陶器	皿	10.3	2.5	10YR 7/3 にぶい黄橙	密
	104	施釉陶器	皿	11.6	3.2	10YR 6/4 にぶい黄橙	密
	105	施釉陶器	皿	11.5	3.75	2.5YR 6/6 橙	密
	106	施釉陶器	皿	10.5	3.3	N 7/0 灰白	密
	107	施釉陶器	皿	10.6	3.5	N 6/0 灰	密
	108	施釉陶器	皿	12.5	4.3	10YR 7/3 にぶい黄橙	密
	109	施釉陶器	皿	11.8	3.3	N 6/0 灰	密
	110	施釉陶器	鉢	11.4	3.8	N 7/0 灰白	密

出土遺構	遺物No.	器種	器形	口径(cm)	器高(cm)	色調	胎土
土坑16	111	施釉陶器	椀	12.0	5.3	N 5/0 灰	密
	112	施釉陶器	椀	10.8	9.0	N 8/0 灰白	密
	113	施釉陶器	椀	12.1	7.2	10YR 7/2 にぶい黄橙	密、1mm以下の長石、黒色粒子
	114	施釉陶器	鉢	15.0	4.8	N 8/0 灰白	密
	115	瓦質土器	蓋	18.7	2.55	N 4/0 灰	密
土坑18	116	土師器	皿	5.6	1.35	10YR 7/3 にぶい黄橙	密、1mm以下の長石、黒色粒子
	117	土師質土器	焼塩壺蓋	6.8	1.6	外面) 5YR 6/6 橙	密、1mm以下の長石、金雲母、黒色粒子
	118	施釉陶器	蓋	5.3	1.05	2.5Y 8/2 灰白	密、1mm以下の長石、黒色粒子
	119	施釉陶器	合子	3.6	2.05	10YR 8/2 灰白	密
	120	施釉陶器	鉢	13.7	5.3	5YR 4/4 にぶい赤褐	密、1mm以下の長石、黒色粒子
	121	施釉陶器	椀	11.0	6.1	10YR 5/3 にぶい黄褐	密、1mm以下の長石、石英
	122	施釉陶器	椀	11.5	6.2	2.5Y 7/2 灰黄	密、1mm以下の長石
	123	施釉陶器	皿	11.1	2.65	2.5Y 8/2 灰白	密
	124	瓦質土器	鉢	24.2	9.6	外面) 2.5Y 7/2 灰黄	密、2mm以下の長石、石英、黒色粒子
土坑48	125	土師器	皿	5.3	1.3	10YR 8/3 浅黄橙	1mm以下の長石、金雲母
	126	土師器	皿	9.2	1.9	10YR 8/3 浅黄橙	1mm以下の金雲母、チャート
	127	土師器	皿	10.7	2.1	10YR 8/2 灰白	1mm以下の長石、金雲母、チャート
	128	土師器	皿	10.4	2.1	7.5YR 8/2 灰白	1mm以下の長石、金雲母
	129	土師器	皿	12.1	2.3	10YR 8/3 浅黄橙	密
	130	軟質施釉陶器	椀	11.0	8.0	2.5Y 5/6 明赤褐	粗、6mm以下の砂粒、微小の長石、金雲母
	131	ルツボ		13.6	—	2.5Y 7/1 灰白	
井戸50	132	土師器	皿	9.6	1.8	10YR 7/2 にぶい黄橙	密、1mm以下の長石、雲母
	133	土師器	皿	9.8	2.25	10YR 7/2 にぶい黄橙	密、1mm以下の長石、赤色粒子、黒色粒子
	134	土師質土器	焼塩壺蓋	7.0	1.9	7.5YR 7/3 にぶい橙	密、1mm以下の長石、雲母、赤色粒子、黒色粒子
	135	土師質土器	焼塩壺蓋	7.2	2.25	7.5YR 7/4 にぶい橙	密、1mm以下の長石、チャート、赤色粒子、黒色粒子
	136	土師質土器	焼塩壺	5.05	8.3	7.5YR 7/4 にぶい橙	密、1mm以下の長石、雲母、チャート
	137	土師質土器	焼塩壺	4.65	9.1	5YR 7/4 にぶい橙	密、1mm以下の黒色粒子
	138	施釉陶器	椀	7.6	2.9	5Y 8/1 灰白	密、2mm以下の長石、赤色粒子
	139	施釉陶器	皿	11.95	2.8	2.5Y 8/2 灰白	密、2mm以下の長石、黒色粒子
	140	施釉陶器	鉢	15.1	6.5	2.5Y 8/1 灰白	密、1mm以下の長石
	141	施釉陶器	鉢	17.2	7.9	N 6/0 灰	密、1mm以下の長石、黒色粒子
	142	施釉陶器	鉢	26.0	5.1	10YR 7/4 にぶい黄橙	密、1mm以下の長石、雲母
	143	瓦質土器	火舎	—	12.8	N 4/0 灰	
	土坑13	144	土師器	皿	9.3	1.55	にぶい黄橙
145		土師器	皿	9.6	1.55	外面) 10YR 2/1 黒	密、1mm以下の長石、石英、黒色粒子
146		土師質土器	焼塩壺蓋	8.9	1.0	7.5YR 6/6 橙	密、1mm以下の長石、金雲母、黒色粒子
147		土師質土器	焼塩壺蓋	9.4	0.9	7.5YR 6/6 橙	密、2mm以下の長石、石英、黒色粒子
148		土師質土器	焙烙	29.6	5.0	外面) 10YR 5/2 灰黄褐	密、1mm以下の長石、金雲母、黒色粒子
149		肥前磁器	椀	2.3	1.4	N 8/0 灰白	密
150		肥前磁器	蓋	8.9	1.3	N 8/0 灰白	密
151		肥前磁器	椀	7.1	6.1	N 8/0 灰白	密
152		肥前磁器	椀	7.4	6.2	外面) 5GY 7/1 明オリープ灰	密
153		肥前磁器	椀	9.9	5.5	N 8/0 灰白	密
154		肥前磁器	椀	11.0	6.05	N 8/0 灰白	密
155		肥前磁器	皿	13.5	3.2	N 8/0 灰白	密
156		肥前磁器	皿	23.0	3.9	N 8/0 灰白	密
157		肥前磁器	鉢	23.0	9.8	N 8/0 灰白	密
158		施釉陶器	皿	11.0	2.5	2.5Y 7/2 灰黄	密、1mm以下の長石、石英
159		施釉陶器	蓋	9.0	1.25	10YR 8/2 灰白	密
160		施釉陶器	椀	8.2	6.05	N 8/0 灰白	密
161		施釉陶器	鉢	15.4	8.6	2.5Y 8/2 灰白	密
162		施釉陶器	甕	29.4	33.7	2.5Y 7/1 灰白	密
163	焼締陶器	播鉢	30.5	—	5YR 3/4 暗赤褐	密、4mm以下の長石、石英、赤色粒子	
井戸37	164	肥前磁器	椀	6.8	2.8	N 8/0 灰白	密
	165	肥前磁器	椀	8.8	4.3	N 8/0 灰白	密

付表2 掲載軒瓦一覧表

遺物No.	出土遺構	器形	残存長(cm)	残存幅(cm)	残存厚(cm)	残存高(cm)	色調	胎 土
166	土坑7	軒丸瓦	2.3	8.5	2.3	7.1	10YR 6/1 灰	4mm以下の長石、石英、チャート
167	土坑23	軒平瓦	7.55	7.2	1.75	6.82	N 6/0 灰	密、1mm以下の長石、チャート、黒色粒子
168	溝26	軒平瓦	8.55	15.6	3.25	4.7	N 6/0 灰	密、3mm以下の長石、雲母、チャート
169	土坑17	軒平瓦	6.8	13.2	2.2	4.35	N 6/0 灰	密、2mm以下の長石、雲母、金雲母
170	土坑11	軒平瓦	6.65	7.7	2.6	6.2	N 5/0 灰	密、2mm以下の長石、石英、チャート

付表3 掲載木製品一覧表

遺物No.	出土遺構	器形	残存長(cm)	残存幅(cm)	残存厚(cm)	備 考
171	土坑20	下駄	19.5	12.8	5.7	
172	土坑20	木球	5.75	6.85	6.25	
173	土坑7	ヘラ	8.35	1.0	0.25	
174	土坑20	ヘラ	12.75	0.85	0.35	
175	土坑7	建築部材	27.1	8.1	8.6	
176	土坑20	箸	16.2	1.05	0.55	
177	土坑20	箸	16.25	1.1	0.4	
178	土坑20	箸	19.9	0.75	0.4	
179	土坑7	箸	21.45	1.3	0.75	
180	土坑20	箸	21.9	1.0	0.55	
181	土坑20	箸	22.35	0.55	0.55	
182	土坑7	箸	22.9	1.3	0.7	

付表4 掲載金属製品一覧表

遺物No.	出土遺構	器形	残存長(cm)	残存幅(cm)	残存厚(cm)	重さ(g)	備 考
183	土坑7	釘	3.2	0.3	0.2	0.9	
184	土坑7	釘	4.6	0.3	0.2	1.7	
185	土坑7	釘	5.6	0.3	0.2	1.3	
186	土坑7	釘	5.4	0.4	0.3	2.3	
187	土坑7	釘	7.1	0.5	0.4	5.8	
188	土坑7	釘	4.8	0.4	0.3	2.1	
189	土坑7	釘	10.8	0.3	0.3	6.1	
190	土坑10	火箸	20.6	0.6	0.6	3.65	
191	土坑9	金具	3.6	0.3	0.4	5.2	
192	土坑15	数珠玉	1.6	1.5	1.0	2.413	
193	井戸50	小柄	9.6	1.4	0.5	16.2	
194	井戸50	小柄	11.5	1.3	0.6	7.3	
195	土坑20	銀製品	4.45	4.0	0.7	30.7	

付表5 掲載石製品・土製品一覧表

遺物No.	出土遺構	器形	残存長(cm)	残存幅(cm)	残存厚(cm)	色調	胎 土
196	土坑11	基石	2.6	1.85	0.6	N 3/0 暗灰	
197	土坑11	基石	2.35	2.2	0.5	N 3/0 暗灰	
198	土坑11	基石	2.55	2.2	0.65	N 3/0 暗灰	
199	土坑16	土製円盤	2.85	3	0.6	10YR 8/3 浅黄橙	1mm以下の長石、チャート
200	土坑11	鑄型	6.85	5.75	2.45	7.5YR 7/4 にぶい橙	密、2mm以下の長石、雲母、金雲母、チャート
201	土坑19	瓦製円盤	9.5	11.8	1.9	N 7/0 灰白	密、2mm以下の長石、石英、チャート

版 图

報 告 書 抄 録

ふりがな	へいあんきょうさきょうさんじょうさんぼうじゅっちょう (おしこうじどの・にじょうどの) あと							
書名	平安京左京三条三坊十町 (押小路殿・二条殿) 跡							
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告							
シリーズ番号	2007-8							
編著者名	木下保明							
編集機関	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1							
発行所	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
発行年月日	西暦2007年11月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
へいあんきょうさきょう 平安京左京 さんじょうさんぼうじゅっちょう 三条三坊十町 (おしこうじどの・ 押小路殿・ にじょうどの) あと 二条殿 跡	きょうとしなかしやうく 京都市中京区 りょうがえまちどおり 両替町通 おいけあがる 御池上る かなぶきちやう 金吹町453-1	26100		35度 00分 42秒	135度 45分 31秒	2007年3月 30日～2007 年5月25日	約200m ²	マンション 建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
平安京左京 三条三坊十町 (押小路殿・ 二条殿) 跡	都城跡	平安時代後期 ～鎌倉時代	土坑、溝、石敷き、 集石、柱穴	土師器、白磁、瓦				
		室町時代	土坑	土師器、土師質土器、 輸入磁器、瓦質土器、 施釉陶器、軒平瓦、木 製品、金属製品				
		江戸時代初期	土坑、井戸	土師器、土師質土器、 ルツボ、輸入磁器、瓦 質土器、施釉陶器、軟 質施釉陶器、焼締陶器、 木製品、金属製品、土 製品、石製品、漆器製 造関係遺物				
		江戸時代後期	土坑、井戸、溝	土師器、土師質土器、 肥前磁器、施釉陶器、 焼締陶器				

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2007-8

平安京左京三条三坊十町
(押小路殿・二条殿) 跡

発行日 2007年11月30日

編集 財団法人 京都市埋蔵文化財研究所
発行

住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町 265 番地の1
〒602-8435 TEL 075-415-0521
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社

住所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町 298 番地
〒604-0093 TEL 075-256-0961